

山梨県立大学地域研究交流センター

2010

年度研究報告書

年 報

目次

地域研究交流センター長挨拶 地域研究交流センター改革の1年	1
I. 交流・支援部門	3
1. 講師・委員等の応嘱	4
2. 学外からの相談等への対応	5
3. 高校大学連携講座の実施	5
4. 教員の地域貢献活動への支援	6
5. 学生による地域貢献活動への支援	7
6. 大学周辺自治会との連携	8
7. 看護・福祉専門職支援	9
II. 情報発信部門	11
1. ニュースレターの発行	12
2. パンフレットの発行	13
3. ウェブサイトでの情報発信	13
4. 年報の発行時期の変更	13
III. 生涯学習部門	15
【1. 地域研究交流センター主催講座】	
1. 「山梨県立大学春季総合講座 ～最前線シリーズ～」	16
2. 「デザイン講座」	16
3. 「観光講座」	17
4. 「YPU Summits」	18
【2. 県民コミュニティカレッジ】	
1. 「地域の国際化がもたらす可能性～多文化との共生を通して～」	21
2. 「あなたの不安を解消するためのライフ・プラン講座」	21
【3. 地域連携講座】	
1. 「日本語・日本文化講座」	23
2. 「甲府市幼児教育センター月齢別講座」	24
3. 「子育て食育講座」	26
4. 「子育て支援リーダー養成研修」	27
5. 「地域子育て創生事業」	29
【4. 学部共催講座】	
1. 「成年後見法施行10周年記念講演会」	30

2. 「ソーシャルワーカーリカレント講座」	30
3. 「子育て支援フォーラム」	31
4. 「保育リカレント講座」	32
5. 「人間福祉学部講演会」	32
6. 「健康講座」	33
7. 「カウンセリング基礎研修」	34
IV. 地域研究部門	35
V. 戦略開発部門	37
VI. 事務局	43
1. 企画運営委員会記録	43
2. 組織図・委員名簿	44
3. 地域研究交流センター委員一覧	45
資料	
1. 年間時系列記録	47
2. フライヤー等	53

地域研究交流センター長 挨拶

「地域研究交流センター改革の1年」

地域研究交流センター長 前澤哲爾

2010年4月1日、公立大学法人としてスタートを切ると同時に、地域研究交流センター長に就任した。2005年開学と同時に設置された当センターは、地域に開かれた大学として、多くの地域活動を推進し、実績を蓄積してきたが、この法人化を契機として、運営委員と協働して、できうる限りの改革を行うこととした。それらの改革は、法人化後6年間の中期計画および年度計画に沿ったものである。

予算執行の改善と成果発表の公開

「地域研究部門」は、毎年センターが指定して行う「プロジェクト研究」と学内募集する「共同研究」に対して、予算配分して実施支援をしている。

(1) 印刷費切り離し

例年、この研究予算は、選定された各研究に対しての配分予算の中で、印刷した報告書の納品を義務付けており、毎年、実施研究の数だけ報告書が提出されてきた。研究の中には、継続的なものもあり、またプロジェクト中心のものもあり、単年度で毎回報告書を作成することに対する批判もあった。また、印刷経費圧縮の観点から、印刷経費をセンターでプールし、合冊報告書の作成を可能にした。

(2) 報告会開催と決算報告

各研究は昨年度まで報告書納品で終了していたが、広く成果を公表し、かつ相互評価の機会を担保するために、3月17日に「研究報告会」を実施することとした。しかし、東北関東大震災のため延期となり、5月18日開催となった。

(3) 「研究事業」と「活動事業」の仕分け

「研究事業実施要項」を見直し、研究と活動の2つの事業に分け、来年度から募集の際に告知し、実態に沿った形での支援ができるようにした。

情報発信力の強化

情報発信部門が中心となって、対外的な広報物に対して全面的なリニューアルを行った。

(1) 「NEWS LETTER」の一新

今年度デザインを一新し、新たに「tobira」という誌名とし、編集内容も含め、親しみやすく、読みやすくした。

(2) パンフレットの新規発行

センターの利用を促進するためのパンフレットを新たに2011年3月に発行した。

(3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイト上においても、よりユーザーが利用しやすいウェブサイトに改善するため検討し、2011年3月にリニューアルしたウェブサイトを公開した。

(4) デザイン力のあるポスター・ちらし作成

センター主催の講座開催に当たり、それまで教職員が手作りでポスター・チラシなどを作成してきたが、予算を勘案しながら、プロのデザイナーを起用し、発信力のある広報部製作を行った。

センター室の機能強化

今までセンター事務室は、通常閑散としており、作業があるときだけ使用するという状態だった。レイアウトや設備強化を図り、多くの活動の拠点となるようにした。1月からセンター事務員を配置し、機能アップが進んだ。

(1) 「サービス・ラーニング(SL) 開発センター」の設置

文部科学省のいわゆる教育 GP で採択された「課題対応型サービス・ラーニングによる公立大学新教育モデル」を実施・運営する組織をセンター事務室に開設した。担当職員が、配置されている。

その関係予算によって、デザインや映像編集に適した iMac3 台を含め、パソコン・プロジェクターなどが配備され、地域活動を支援できる機能が向上した。

(2) 「やまなし映画祭」事務局の設置

甲府市との連携協定の下で、今年度から「やまなし映画祭」の事務局をセンターに設置し、活動拠点として使用した。

今後の課題

生涯学習部門を中心に「授業開放講座」の検討が進んでいる。来年度後期開講を目指し、運営のための準備をしている。また、富士川町、丹波山村、道志村などとの事業推進のために、今後の協力プログラムの検討を進めていかななくてはならない。また、県内各機関との提携事業、大学がある地元地域と交流などの強化など、まだ道半ばである。いずれも新規的要素を含んだ事業であり、多くの検討事項が残されている。

この年報の発刊は運営委員会、各専門委員会、担当事務局の方々や多くの関係者のご協力の賜物であるが、来年度さらにご協力を得て、実施していくことになる。法人化し、「開かれた大学」を実質化するためには、さらにエネルギーを必要としていると強く実感する。

最後に、地域研究交流センターの使命をご理解いただき、益々のご支援をお願いしたい。

(文責：前澤哲爾)

交流・支援部門

1. 部門事業の概要

(1) 講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

(2) 学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

(3) 高校大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を継続して実施した。

(4) 教員の地域貢献活動への支援

支援メニューを学内教員に周知した。また、メニューに基づく支援を行った。

(5) 学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、6 件のプロジェクトを認定・支援するほか、「学生生活活動支援室」の活動として、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

(6) 大学周辺自治会との連携

昨年に引き続き、池田キャンパス周辺の 3 自治会自治会長、飯田キャンパス周辺 1 自治会会長、役員に参加を得て、地域自治会と大学との情報交換会を大学及び、地域自治会に出向いて行った。また、情報交換会であがった地域自治会の要望に基づき、地域の行事へ、学生や教員が参加・協力した。

(7) 看護・福祉専門職支援

本年度は、大学祭における福祉専門職交流コーナーの設置、地域自治会の行事への看護学生への参加・支援という二つの新しい活動を行った。

2. 部門事業の実績と課題について

本年度は、大学周辺自治会と、防犯・防災をテーマとした情報交換会、地域自治会への学生、教員の参加・協力、看護・福祉専門職支援においては、大学祭の時の専門職交流の場を設置するなど、新たな試みも行った。全体的にみて、本学の教員・学生の人材を生かして、地域や専門機関などと、足元の地域から、地道に日常的に、交流・支援を広げていく方向性の重要性もみえてきた。このような方向性を、学内全体で、広く共有し、展開していくことが今後の課題である。

1. 講師・委員等の応嘱

本学教員は、学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成22年度の応嘱状況を下の表に示す。これによれば、全学でのべ319件の応嘱があり、内訳は、講義・講演が214件、委員等が91件、その他が14件であった。学部別には、国際政策学部が36件、人間福祉学部が115件、看護学部が168件、職員等が0件であった。

なお、本報告における数値は平成23年2月18日までに事務局・総務課を経て、地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が相当数存在すると考えられる。

表1 平成22年度の講師・委員等応嘱状況

学部名	依頼内容名			総計
	講義・講演	委員等	その他	
国際政策	6	26	4	36
人間福祉	84	28	3	115
看護	124	37	7	168
職員等				
総計	214	91	14	319

表2 平成22年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育園		4			4
小中学校		5	5		10
高等学校			1		1
専門学校			3		3
大学・短期大学		1	2		3
県関係機関	1	25	17		43
市区町村		18	16		34
各種団体	2	24	61		87
医療機関・福祉機関等		6	18		24
省庁等	1	1			2
その他	2		1		3
総計	6	84	124	0	214

表3 平成22年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	1				1
大学・短期大学		2			2
県関係機関	9	11	12		32
市区町村	6	4	2		12
各種団体	8	5	18		31
医療機関・福祉機関等		1	1		2
省庁等	2	3	1		6
その他		2	3		5
総計	26	28	37	0	91

表4 平成22年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校					
県関係機関	2	1			3
市区町村			4		4
各種団体	2		2		4
医療機関・福祉機関等					
その他		2	1		3
総計	4	3	7	0	14

(文責：川池智子)

2. 学外からの相談等への対応

地域研究交流センターは、学外と大学を結ぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応している。申請書が提出されたもので把握され、後援、支援などを行った事業は以下のようなものである。

- ① 山梨県立美術館の「とびだせ美術館！ アートの種まきワークショップ」のポスター、チラシの学内への掲示、スタッフ募集要項の学内への掲示・配布への支援（4月）
- ② NPO 法人 フードバンク山梨からの協力要請があり、交流・支援部門 下村委員、人間形成学科鳥居講師を中心に学生の協力体制ができた。
- ③ 南アルプス市社協からのお祭りボランティアの募集への支援（7月）
- ④ 南アルプス市政策推進課からの相談を受け、南アルプス市の芦安地区の地域づくりを推進するための勉強会への協力（熊谷委員、安達委員、箕浦委員が対応）を行った。（7月～）
- ⑤ 「Corason」という学生団体（女性の健康のための情報発信等を目的とした団体。本学学生が中心となって活動）の依頼があり、大学祭にて実施する子宮頸がん啓発イベントに関して、1. 山梨県立大学HPによるイベント事前紹介、2. 協力名義（広告チラシ協力欄への大学名の掲載）3. 当日用垂れ幕、立て看板の印刷4. 当日資料 200部（白黒・裏表印刷・800枚）の印刷へ協力した。なお、この団体が実施する「子宮頸がん撲滅プロジェクト」は大学コンソーシアム山梨の平成22年学生イニシアティブ事業に採択されており、このイベントもその事業の一環にあたる。
- ⑥ 「広がれ！小瀬エコスタジアムプロジェクト」（2010年4月より開始、本学の学生、教員（箕浦委員）も関わっている。サッカーJリーグのヴァンフォーレ甲府のホームゲームが行われる小瀬競技場におけるごみの削減などのエコ活動を推進する取り組み。）の一環で行われるシンポジウム「エコスタジアムフォーラム in 甲府」（2011年2月13日 於・県立文学館）へ後援した。
- ⑦ 看護学部 長坂香織准教授より、やまなし国際保健支援ネットワーク主催「やまなし定住外国人子どもと母親のための多言語健康相談会」（10月開催）への後援申請があり、後援名義、広報の協力（県庁記者クラブへの投げ込みおよび大学HP掲載）を協力した。本団体には、長坂准教授と小尾栄子助教が関わっている他、看護学部教員の協力もある。

(文責：川池智子)

3. 高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として、城西高校からの依頼を受け、平成18年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした高校大学連携講座「家庭看護・福祉」を本年度も継続して実施した。看護学部8名、人間福祉学部7名、計15名の教員の協力があった。教員名とテーマは以下のとおりである。

「看護福祉」 県立大学連携授業 大学教員担当分 火曜日午後(13:45～14:35 14:40～15:30)

担当学部	月日	講義テーマ
看護学部	5月25日	真下綾子講師（医療安全における危険予知訓練）
看護学部	6月1日	田淵 和子准教授(子どもの成長・発達と支援)
看護学部	8月31日	望月宗一郎講師(なぜ、市役所に保健師がいるのか)
看護学部	9月7日	相羽利昭講師（援助するということ）
看護学部	9月14日	本間隆之講師（わかっちゃいるけど、やめられんねえ）
人間福祉学部	9月21日	古屋祥子講師(心の表現（仮題）)
人間福祉学部	10月5日	大塚ゆかり准教授（心の健康を考えてみましょう）
看護学部	10月12日	清水恵子教授（自殺予防、私たちにできること）
人間福祉学部	10月19日	鳥居美佳子講師（賢く美しくなるためのダイエット）
人間福祉学部	10月26日	柳田正明准教授（障がいのある人の理解と支援、その入り口へのご案内）
人間福祉学部	11月2日	川池智子准教授（障害をもつ子とその家族の支援）
人間福祉学部	11月9日	山田千明教授（多文化共生時代の子育て）
人間福祉学部	12月21日	畑本裕介准教授（社会保障の今日的課題）
看護学部	1月18日	小山尚美助教（老人の看護）
看護学部	2月1日	梶原睦子教授（がん看護について）

（文責：川池智子）

4. 教員の地域貢献活動への支援

（1）教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的におこなう地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知した。周知したメニューは以下の通りである。

A. センター主催の「地域交流ミーティング」としての採択・実施

- ・教員による自主的な地域貢献活動のうち適切なものを、センター主催の「地域交流ミーティング」として実施する。

B. センター「支援事業」の認定・支援

- ・センターの「支援事業」として認定する。認定事業はセンター経費を利用することが可能となる。また、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報などの支援をおこなう。

C. センター「後援」等の名義使用

- ・センターの後援名義の使用を認める。
- ・教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意思表示をするにふさわしいものを対象とする。

D. 学生ボランティアの募集協力

- ・センターが本学での学生ボランティア募集に協力する。
- ・教員が主体的に関与する事業または教員が学外団体から協力依頼された事業で、本学の地域貢献としてふさわしく、かつ学生参加の観点からも適切なものを対象とする。

（2）平成21年度の実施事業

本年度は、池田政子教授から、連続公開講座「やまなしの女性史を学ぶ」への支援の要請を受け、シンポジストに係る経費を補助した。

（文責：川池智子）

5. 学生による地域貢献活動への支援

(1) 「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援制度 実施要項」を平成 20 年 6 月に定めた。これは、本学の学生又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイトに公表するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要項に基づき、平成 22 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

(a) 教職員からの推薦

実施要項では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 22 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、9 件のプロジェクトが推薦された。

(b) 選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考をおこなった。選考委員会のメンバーは、小田切理事、深澤理事、前澤教授、清水教授、大塚准教授、川池准教授、箕浦准教授の 7 名であった。平成 23 年 1 月 20 日に選考委員会が開かれ、協議の結果、6 件のプロジェクトの認定が決定された。

(c) 認定

認定式を平成 23 年 1 月 31 日 12:20～12:50 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室にて開催した。

平成 22 年度 学生優秀地域プロジェクト 認定一覧

番号	プロジェクト名	実施主体名
1	ブラジル人学校と大学を繋いだ遠隔日本語教育プロジェクト	遠隔日本語教育チーム
2	「外国人から見た山梨の魅力と課題」プロジェクト	「外国人から見た山梨の魅力と課題」調査チーム
3	外国人の日本語学習を応援する託児ボランティア	子どもボランティアサークル
4	デートDV防止プロジェクト	山梨県立大学ヘルスプロモーションクラブ（リプロ研）
5	山梨県国際交流センターユニバーサルデザイン化プロジェクト	山梨県国際交流センターUD 化研究事業グループ
6	女性の健康に関する意識啓発プロジェクト	Corason

(2) 「学生活動支援室」の活動

平成 19 年度より設置している「学生活動支援室」により、学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信をおこなった。

(文責：箕浦一哉)

6. 大学周辺自治会との連携

(1) 情報交換

昨年度から開始した、大学周辺自治会との情報交換は本年度、学内で 1 回開催し、2 回目は、自治会会議へ参加するという形で行った。

まず、本年度の学内での会議は、平成 22 年 7 月 9 日（金）16 時～17 時半 飯田キャンパス 中会議室で開催され、地域自治会からは、長松寺北部自治会長（池田自治会連合会長）、荒川自治会会長、長

南自治会長、飯田鶴巻台西自治会長、同防災担当役員、大学側からは深澤事務局長、波木井理事、前澤 地域研究交流センター長、藤谷 人間福祉学部長、川池 地域研究交流センター 交流・支援部門長、小林たつ子・渡邊裕子交流・支援部門委員、学務課職員、総務課防災担当職員が参加した。話し合いの内容は以下のとおりである。

① 地域自治会行事への大学・学生の参加について

下記の行事がこれから、開催される。まずは学生たちが楽しんで、また勉強として参加して、少しずつ交流が深まっていくことができればという要望がだされた。

池田地区

- ・ ふるさとまつり（平成 22 年 8 月 21 日 午後 5 時～ 於・池田小グラウンド）
自治会メンバーが屋台をだすので今年は遊びにきてもらい、そのうち学生に手伝ってほしい。
- ・ 文化祭（平成 22 年 10 月 16 日 17 日 於・西部市民センター）
池田地区にも 太鼓のグループがある。学生の太鼓部？がお昼に参加してもらってもいい。
- ・ 健康祭（平成 23 年 3 月 6 日 於・西部市民センター）
看護学部の学生に血圧測定などをしていただければという要望がでた。
* 池田地区全体の高齢化率は 18%だが、下飯田東部・南部は 40% 看護だけではなく、福祉の学生の参加・協力も今後 お願いしたい。

飯田鶴巻台西自治会

- ・ 納涼会（平成 22 年 8 月 8 日 夕方～午後 8 時 於・飯田グラウンド）
- ・ いこいの会の文化祭（平成 22 年 11 月 25 日前後 於・集会所）絵や書、いけばな等、展示物の出展を歓迎するという報告があった。

② 防犯・防災対策について

防犯について

- ・ 街灯を自治会で管理し、夜間の防犯につとめている。
- ・ 防犯連絡協議会をつくっている。
- ・ 学生がアパートにどの程度はいつているかということは把握していないが、できて 5 年程度のワンルームマンションなどでは家賃に 100 円程度自治会へのお金を含めてもらい、ごみの管理・配布物配布の費用としている。
- ・ 新たな道ができて、池田の交差点のあたりの交通事故が心配である。

防災について

- ・ 「池田地区避難所運営協議会」ができて、役割、連絡先、等が確立している。
池田地区の「避難所」は池田小、城西高校、西部市民センター、甲府西高校となっているが、池田キャンパスは長松寺地区 200 戸の一時的な「避難地」となっている。
- ・ 穴切地区の避難所は西中？だが、飯田グラウンドを避難地にしてほしい。
防災倉庫にはチェーンソー、発電機が保管されているので、何かあったときには、大学でも活用してほしい。
- ・ 学生が下宿やアパートに住んでいるが、その状況がどの程度把握され、防災への備えがどういう体制であるか、ということへの質問もあった。
- ・ 大学側からは、入学後のオリエンテーションにて、防犯・防災について学生に話していくことも必要ではないかという意見も出され、今後、さらに地域自治会と情報交換、協力体制を構築していく必要性を確認した。

③ そのほか、今後は、大学に集まっていたくという形だけではなく、大学側から、自治会に伺い、情報交換をする機会を得る形での交流をもつことについて、賛同が得られた。なお池田自治会連合会では毎月 28 日（執行部会は 26 日）、飯田鶴巻台西自治会では、毎月 29 日 自治会の理事会が行われているので、そこでも情報交換の機会があることが了解された。

7 月の池田地区連合会の理事会に、前澤センター長、川池、渡邊が訪問し、挨拶、情報交換を行った。また、センター運営会議にて、今後、学生アルバイトを募り、地域自治会と情報交換の役割を担

うという案が決定した。

(2) 地域自治会行事への参加

上記、会議を受け、今年度は、平成 22 年 10 月 16 日 17 日 於・西部市民センターでの池田地区文化祭に波木井理事が訪問すると共に、学生のサークルからは、陶芸部が作品を出品、和太鼓部が演奏をして、たいへん好評を得た。次年度への継続と、さらなる活発な交流への期待が、地域自治会から寄せられた。

2011 年 3 月に実施された、池田地区 健康祭りへは、看護学部の教員・学生が参加した。詳細は、次項の看護福祉専門職支援で報告する。

(文責：川池智子)

7. 看護・福祉専門職支援

(1) 大学祭での福祉専門職交流コーナーの設置

看護・副専門職支援部門として、年度当初にて、大学祭において、専門職支援・交流のブースを設置する計画を策定したが、今年度は、その一環として、飯田キャンパス大学祭、富桜祭(11 月 6 日午後 1 時～7 日午後 4 時、C 館 1 階 102 教室)にて、福祉専門職交流コーナーを設置し、福祉コミュニティ学科学生をスタッフにして、地域の福祉専門職(卒業生を含む)、地域住民の人たちとの交流を深め、好評を得た。この事業は今年度、初めての試みであり、次年度以降、企画、実施をさらに工夫し、専門職支援・交流の一助としたい。

初年度なので、その状況を紹介するべく、学生スタッフの感想の一部を掲載する。

卒業し福祉職について先輩とお話ししました。現場の様子や仕事のことなどは勉強になりましたし、在学中の就活や卒論についてはいまでも関心があることなので参考になりました。先輩から実習のことを聞けたり、自分が少し悩んでいることを聞いてもらったりしてとても自分のためになりました。また卒業生の方のお話も聞くことが出来て、普段このような機会がなかったのが良かったです。来年は地域の方や高校生がたくさん来てお話出来るようになれば良いかなと思いました。/県大の OG の方々にも質問して今のうちにやっておくと良いことを知ることができました。現在の職場や仕事も教えていただき将来への参考となりました。老若男女の方と話をする機会は貴重な経験になりました。/統合失調症の方と長くお話した。辛かったことなどを話して下さった。今も人の大勢いる場所は苦手らしく、勇気を出して来て下さったのだなあと感じた。福祉の話だけでなく、趣味の話で盛り上がった。福祉センターで働いているそうで、チラシを見ていらしてくれた。楽しかったとおっしゃっていたので、もっと宣伝したらいいんじゃないかなと思います。/卒業生だけではなく、高校生、地域の家族連れ、障害を持つ方なども来てくださって、いろんな人が交流できる貴重な場になったのではないかと思います。

(文責：川池智子)

(2) 「池田地区健康祭り」への参加・協力

2011 年 3 月 6 日(日)に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康祭り」に、看護学部の教員と学生が参加した。昨年度行った「大学周辺自治会との意見交換会」において、池田地区連合会からの要望を受け、今年度の健康祭り実行委員長の正式依頼があり実現した。「看護・福祉専門職支援部門」の担当教員が窓口となり、自治連合会長、健康祭り実行委員長、地区担当保健師と打ち合わせを行い、血圧測定・体脂肪測定・Functional Reach Test(姿勢反射機能と柔軟性の評価)を企画し、当日は教員指導の元に学生が測定を行った。測定した結果を渡しながらか生活面で注意することを話したり、参加者と話したりして交流した。参加者、特に高齢者からは、「地元にある大学の若い学生が地域の活動に参加してくれることがうれしい」や「看護を志す若い学生を応援したい」など、あたたかい言葉をいただく

た。また学生は、「高齢者の話を聴いて勉強になった」や「応援して下さる言葉がうれしかった」など、貴重な機会をいただいたことに感謝していた。

山梨県立大学となってからは、初めての試みであったが、地域住民、学生双方が満足できる内容であった。「来年度も是非参加してほしい」という要望もあったため、さらに内容を充実しながら、今後も継続して参加・協力していきたいと考える。参加教員と学生は、以下の20名である。

教員（5名）：小林たつ子・渡邊裕子・五味千帆・森田祐代・萩原理恵子

学生（15名）：塩島範子・向瀬佳奈（4年生），阿蘇翔里・甘蔗華子・佐藤広実・高橋由衣・保坂直美・若林有紗（3年生），猪野愛花・伊藤美帆・新井優樹・小澤瑞季・田中沙知・山口美保・渡辺憂佳（1年生）

（文責 渡邊裕子）



情報発信部門

1. 部門事業の概要

(1) 地域研究交流センターニューズレターの発行

地域研究交流センターニューズレターは、大学と地域を結ぶ機関紙として、2005年のセンター開設以来年2回発行し、県内外に配布している。今年度はデザインを一新し、下記の通り発行した。

①2010年9月30日 Vol.11 発行

②2011年2月18日 Vol.12 発行

(2) パンフレットの発行

地域研究交流センターの利用を促進するためのパンフレットを2011年3月に発行した。

(3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイト上において、センターの概要、地域支援、生涯学習の案内、地域研究、教育改善、刊行物等について情報発信している。2010年度はよりユーザーが利用しやすいウェブサイトに変更するため検討し、2011年3月にリニューアルしたウェブサイトを公開した。

(4) 年報の発行時期の変更

地域研究交流センターでは1年間の事業実績をまとめた年報を毎年度末に作成してきたが、発行時期を新年度に入ってからにあらため、今年度内の発行はおこなわなかった。

2. 部門事業の実績と課題について

ニューズレター、年報、ウェブサイトの媒体を用いて情報発信を進め、地域研究交流センターの事業活動についての内外への周知を行った。こうした情報発信は事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2010年度は、過去5年間の情報発信を見なおし、ニューズレター・ウェブサイトのリニューアルやパンフレットの新規発行をおこなった。また年報の発行時期を変更した。このことによって、より効果的な情報発信ができるようになったと考える。

ウェブサイトやパンフレットについての本格的な利用は次年度以降となるので、的確で効果のある情報発信ができるように、ウェブサイトのコンテンツの更新やパンフレットの配布・活用を図ることが課題となる。

1. ニュースレターの発行

地域研究交流センターニュースレターは、大学と地域を結ぶ機関紙であり、大学の教員や学生による地域貢献、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を県内に紹介するとともに、全国に向けて発信する役割を持つ。2005年のセンター開設以来、A4判カラー8ページで、年2回発行され、県内外に配布している。

2009年度までの5年間で10号のニュースレターを発行したことを節目として、2010年度発行分からデザインと内容を一新した。また、新たに「tobira」という誌名をつけた。今年度は取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで、内容の充実を図った。

2010年度は2号のニュースレターを発行した。発行部数は4,000部で、このうち2,985通を関係先596箇所へ発送している。内訳は、県関係(46箇所)、市町村(27箇所)、文化施設(56箇所)、県内大学(11箇所)、実習先(病院・福祉機関・幼稚園・保育園等、143箇所)、企業(14箇所)、県内非営利活動法人(169箇所)、県内高校(54箇所)、その他(76箇所)である。各号の概要は以下の通りである。

(1) ニュースレター Vol.11 の発行

2010年9月30日発行のニュースレター第11号は以下の内容とした。

- ・特集「おじゃまします！山梨県立大学です。」：前澤センター長がNPO法人「やまなしし朝の市の会」の店舗を訪問し、同法人事務局長の小野鈴枝さん、スタッフの依田諭さんと語り合った内容を掲載した。
- ・「地域とつながる」(県立大学の地域連携・地域貢献事業の紹介)：「日本で生活する外国人のための日本語・日本文化講座」を紹介した。
- ・「VOICE」(学外者へのインタビューによる県立大学の取り組みの紹介)：教育GPでの連携先である甲府市中央地域包括支援センターと相生地区住民へのインタビュー記事を掲載した。
- ・「私たちの一歩！」(学生による地域貢献活動の紹介)：「山梨エコユースフォーラム」の活動を紹介した。
- ・10月以降の開催予定講座の告知を掲載した。

(2) ニュースレターVol.12 の発行

2011年2月18日発行のニュースレター第12号は以下の内容とした。

- ・特集「山梨県立大学と一緒に」：県立大学で受託した事業の例として、山梨県医務課との協働による「就業環境改善アドバイザー派遣事業」、甲府市幼児教育センターからの委託による子育て支援事業、富士川町からの委託による「富士川町“地元力”増進講座 with 山梨県立大学」を紹介した。
- ・「地域とつながる」：研究プロジェクト「地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について」を紹介した。
- ・「VOICE」：株式会社松下製作所の松下清人社長へのインタビューを中心とした記事を掲載した。
- ・「私たちの一歩！」：「おはなしクラブ」の活動を紹介した。
- ・2月以降に開催予定の講座・イベントの告知を掲載した。

(文責：箕浦一哉)

2. パンフレットの発行

2010年4月から大学が法人化されたことを受け、地域研究交流センターの利用を促進するための新しいパンフレットを発行した。2010年度当初から検討を始め、利用者の視点から理解しやすい内容とするために協議を重ねた。判型は一辺148mmの正方形で12ページ建てとし、2011年3月に7,000部を発行した。

(文責：箕浦一哉)

3. ウェブサイトでの情報発信

山梨県立大学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、各種の情報発信をおこなっている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信を行っている。他に、センターの概要、ニューズレター等の刊行物、学生優秀地域プロジェクトの活動報告等を掲載している。

並行して、よりユーザーが利用しやすいウェブサイトに変更するための検討も進めた。そのための学生チームが結成され、情報発信部門委員とともにデザイン、内容、使いやすさの点からウェブサイトの改善を検討した。2011年3月にリニューアルしたウェブサイトを公開した。

(文責：箕浦一哉)

4. 年報の発行時期の変更

『山梨県立大学地域研究交流センター年報』は、1年間の地域研究交流センターの事業実績をまとめたもので、地域研究交流センター説明資料や自己点検評価等の資料として活用されている。2005年度のセンター開設以来、年報は年度末に発行してきたが、そのためには原稿を2月初旬には集める必要があり、年度末の時期に実施する事業の報告の記載が不十分となる場合があった。そこで新年度に入ってから年報を発行することに変更し、2010年度年報の発行は2011年5月とした。

(文責：箕浦一哉)

生涯学習部門

1. 部門事業の概要

平成22年度は、以下の講座を実施した。

- (1) 地域研究交流センター主催講座
 - ① 春季総合講座～最前線シリーズ～（3回）
 - ② デザイン講座（4回）
 - ③ 観光講座（4回）
 - ④ YPUサミット（2回）
- (2) 県民コミュニティカレッジ講座（広域・地域）
 - ① 県民コミュニティカレッジ（広域ベース講座・山梨大学共催）
 - ② 県民コミュニティカレッジ（地域ベース講座）
- (3) 地域連携講座
 - ① 日本語・日本文化講座
 - ② 幼児教育センター講座（月齢別）
 - ③ 子育て食育講座
 - ④ 子育て支援リーダー養成研修
 - ⑤ 地域子育て創生事業
- (4) 学部共催講座
 - ① 成年後見法施行10周年記念講演会（国際政策学部）
 - ② ソーシャルワーカーリカレント講座（人間福祉学部）
 - ③ 子育て支援フォーラム（人間福祉学部）
 - ④ 保育リカレント講座（人間福祉学部）
 - ⑤ 学部講演会（人間福祉学部）
 - ⑥ 健康講座（看護学部）
 - ⑦ カウンセリング基礎研修（看護学部）

2. 部門事業の実績と課題について

昨年度実施した講座に加えて、センター主催講座としては「YPUサミット」、地域連携講座として「日本語・日本文化講座」（文化庁助成金事業）、「地域子育て創生事業」を実施した。また、昨年度より実施している地域研究交流センター学生サポーター制度を活用し、複数の講座に各2～3名の学生スタッフを参加させた。

また、県民コミュニティカレッジ（広域ベース）では、山梨大学と連携し同一テーマに両大学の教員が参加して一つの講座を実施した。このように、生涯学習講座を通して大学間の連携を強化することができたのは一つの成果である。大学間の研究者交流が進むことで、教育や研究レベルを高めることができるのではないかと考える。

来年度に関しては、従来講座の実施とともに、授業開放講座（後期より）が予定されている。各講座の実施にあたっては、センターの教職員の人員配置を勘案した講座の企画・運営が必要である。と同時に、講座案内など広報に関する一定の形式を整える必要があるだろう。

1. 【地域研究交流センター主催講座】

1. 「山梨県立大学春季総合講座～最前線シリーズ～」(全3回)

- (1) 趣旨：山梨県立大学の3学部を代表する教員が、現代のもっともホットな話題を、具体的かつわかりやすく解説する地域研究交流センターの春季定例公開講座。
- (2) 対象：一般県民、大学生
- (3) 日時：下表参照
- (4) 場所：山梨県立大学 A 館6階サテライト教室
- (5) 受講者数 第1回8名、第2回15名、第3回17名

◆第一回 5月15日(土) 14:00-16:00 演題：「激変する北東アジアとわが国の平和と安全 ～北朝鮮の核・ミサイル開発を中心として～」 講師：齊藤直樹氏(山梨県立大学国際政策学部)
◆第二回 5月29日(土) 14:00-16:00 演題：あなたとあなたの赤ちゃんの健康を守るための助産師活用術 講師：名取初美氏(山梨県立大学看護学部)
◆第三回 6月5日(土) 14:00-16:00 演題：「地方都市での生活と空間論」 講師：畑本裕介氏(山梨県立大学人間福祉学部)

(文責：安藤 淑子)



第二回講師名取氏

2. 「デザイン講座」(全4回)

- (1) 趣旨：「身の周りを解体する」というテーマの元に、編集とデザインという一見異なる領域を、冊子作成という具体的な活動を通して学ぶ体験型・参加型の講座。
- (2) 日時：下表参照

(3) 場所：山梨県立大学A 館6階サテライト教室

(4) 講師：保坂紀明氏、雨宮千春氏

(5) 実施状況：第1回21名、第2回25名、第3回9名、第4回7名

第一回	12月1日(水)	18:10-20:10	「編集とデッサンとの関係」
第二回	12月15日(水)	18:10-20:10	「冊子づくりのコツ」
第三回	1月12日(水)	18:10-20:10	「調べる、組み立てる」
第四回	1月19日(水)	18:10-20:10	「自分だけの冊子」

(文責：安藤 淑子)



講座風景

3. 観光講座（全4回）

「とことん語ろう！観光ビジネス 徹底論議3時間」

第一線の実業家をキースピーカーとして招き、「山梨の魅力をどうお金に変えるか」を来場者と語る。

(1) 趣旨：観光の話は様々あれど、一般論はもう聞き飽きた(と、思いませんか)。

ビジネスは、常に新しいコンセプトを具現化することだ(だから、価値がある)。

行政に頼らず、独自の道を切り開いてきたポリシーを聞きたい(質問したい)。

山梨にしっかり根を下ろし、全国から世界へ飛躍するには？(情熱が一番?)。

そんな期待に応えて、ビジネス具体論を展開する「第4回観光講座」が開かれる。

(2) 日時：表参照

(3) 場所：山梨県立大学A館サテライト教室

(4) 講師：表参照

コーディネーター：前澤哲爾（山梨県立大学国際政策学部教授）

(5) 実施状況：受講者数第一回46名、第二回51名、第三回18名、第四回18名

(文責：前澤 哲爾)

第一回	10月16日(土) 13:30-16:30 講師: 船木 上次氏 (萌木の村村長) 「常に良質なものにこだわり、お客様に愛される村をどう作ってきたか？」
第二回	10月23日(土) 13:30-16:30 講師: 丹沢 良治氏 ((株) タンザワ社長) 「全国の観光地を知り尽くして、今山梨で何をしようとしているか？」
第三回	2月19日(土) 13:30-16:30 講師: 中丸真治氏 (株式会社桔梗屋グループオーナー) 「山梨にこだわり続け、どうやって日本を代表するおみやげにできたのか？」
第四回	2月26日(土) 13:30-16:30 講師: 鎌田由美子氏 (JR東日本地域活性化部門部長) 「『エキナカ』をヒットさせ、今度は地域活性化ビジネスで何をするのか？」



第三回講師中丸氏

4. YPU Summits (全2回)

1. YPU SUMMIT Spring 山梨県立大学 公立大学法人化記念フォーラム 「地域における大学の力」～県民の期待にどう応えるか～ 知事・学長・県民が生議 論！」

- (1) 趣旨: 山梨県立大学は、4月に公立大学法人として新たなスタートをきりました。自立的な運営が可能になることで、山梨県における教育・研究・地域貢献拠点としてさらに各関係者と連携を深め活動を広げていきます。今もう一度原点を振り返り、かつ県民のニーズや行政の期待を踏まえて、今後どういう方向で発展させていくべきかを議論し、ビジョンを共有していきたいと考えています。その中から、地域における具体的な活動につなげていきます。
- (2) 日時: 平成22年5月8日(土) 14:00-16:00
- (3) 場所: 山梨県立大学飯田キャンパス講堂
- (4) パネラー: 横内正明 (山梨県知事)、伊藤洋 (山梨県立大学学長)
コーディネーター: 前澤哲爾 (山梨県立大学国際政策学部教授)
- (5) 実施状況: 受講者数 57名

◆主な話題：

- 1、公立大学化によって、何が変わるのか？ どんなメリットがあるのか？
- 2、県立である大学の使命とは何か？ どう県民に向き合うのか？
- 3、特に山梨県立大学の人材育成で期待したいことは何か？
- 4、県内就職率を上げることと県内就職先の確保について
- 5、社会人入学をもっと進めていきたいと思うが、どうか？
大学院の設置も検討しているが、どうか？
- 6、県立の文化施設や研究機関との連携を進めていきたいと思うが、どうか？
- 7、今の学生のイメージや大学での教育内容について、

インタビュー映像：県内の有識者、一般県民などに対して、県立大学に関するインタビューを事前に行い、15分に編集したものを上映する。上原勇七氏（商工会議所会頭）、笹本憲男（医師）、船木上次氏（萌木の村）、丹沢良治氏（文化振興）、曾根原久司氏（農業振興）、赤池ミッシェル（ポルトガル語通訳）に取材した。

（文責：前澤 哲爾）



横内知事と伊藤学長の対談風景

2. YPU SUMMIT Winter 第2回YPUサミット 「若者よ 起業を目指せ！」

- (1) 趣旨：ビジネスは今大きな転換点の只中にあります。IT化・国際化に伴い、清算・流通・販売の仕組み自身の変革が求められている今だからこそ、「起業」に大きなチャンスがあります。この不況、金利0%の今は、起業にとって追い風です。3人の講師は自らの道を自分で切り開きました。夢を実現するための「起業精神」を共有してほしいと思います。
- (2) 日時：平成23年1月8日（土）13:30-16:30
- (3) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂
- (4) 講師：雨宮清氏（山梨日立建機社長）：自費で地雷除去機材を開発、国際貢献

田中進氏（サラダボウル社長）：脱サラをして、大型農業法人を設立

加藤智久氏（レアジョブ社長）：フィリピンとつないだオンライン英会話学校

コーディネーター：前澤哲爾（山梨県立大学国際政策学部教授）

（5）実施状況：受講者数 70 名

（文責：前澤 哲爾）

2. 【県民コミュニティカレッジ】

1. 広域ベース講座：「地域の国際化がもたらす可能性～多文化との共生を通して～」(山梨大学共催)

(1) 趣旨：就労、就学、結婚など様々な形で地域の外国人人口は増加を続けています。一方、観光客誘致など県内地域の活性化に外国との繋がりはなくてはならないものになっています。こうした状況を踏まえ、地域の国際化を多面的に捉え、様々な課題とともに、山梨県地域の将来に向けた可能性を探ります。

(2) 日時：平成 22 年 12 月 5 日 (日) 10：30-15：45

(3) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂、B207, 208 教室

(4) 基調講演講師：川村千鶴子氏 (大東文化大学教授)

司会・コーディネーター：安藤淑子 (山梨県立大学国際政策学部)

第一分科会報告者：伊藤亜希子 (山梨大学教育研究開発センター)、山崎かおり (中央市国際交流協会)、森越アロマ (中央市国際交流協会)、岩波玲子 (中央市国際交流協会)、伊藤孝枝 (山梨大学留学生センター)、山梨大学留学生

司会：奥村圭子 (山梨大学)

第二分科会講師：張兵氏 (山梨県立大学准教授)、吉田均氏 (山梨県立大学准教授)

司会：安藤淑子 (山梨県立大学)

(5) 実施状況：受講者数 152 名

(文責：安藤 淑子)



第一分科会風景

2. 地域ベース講座：「あなたの不安を解消するためのライフ・プラン講座」(全4回)

(1) 趣旨：老若男女を問わず現代人の抱える生活上の不安を解消するために、健康、福祉、財産、法律等に関する身近な話題を専門家がわかりやすく、楽しく講義します。

(2) 日時：表参照

(3) 場所：山梨県立大学A館サテライト教室

(4) 講師：表参照

(5) 実施状況：第一回 87名、第二回 12名、第三回 19名、第四回 20名

●第一回 11月27日(土) 14:00-16:00 高柳和江(東京医療保健大学教授) テーマ：健康 「笑いで生き生き人生はつらつ」*看護学部「健康講座」
●第二回 12月11日(土) 14:00-16:00 大塚ゆかり(山梨県立大学人間福祉学部准教授) テーマ：ソーシャルスキルトレーニング 「お互いの経験と関心を生かした支え合い」
●第三回 1月22日(土) 14:00-16:00 澁谷彰久(山梨県立大学国際政策学部教授) テーマ：法律 「あなたの老後を見守る法律」
●第四回 1月29日(土) 14:00-16:00 黒羽雅子(山梨県立大学国際政策学部教授) テーマ：財産 「女性とお金」

(文責：安藤 淑子)

3. 【地域連携講座】

1. 「日本語・日本文化講座」(文化庁委託事業・ソリダリダー日本語教室・甲府市)

- (1) 趣旨：在住外国人のための日本語・日本文化講座（初級～上級）。山梨県は全国的にも外国人集住地域の一つです。しかし、日本語を学ぶことのできる機関は数少なく、初級対象の教室が多いのが現状です。今回は、文化庁の委託事業として、県内の日本語上級者向けのコースを設けるとともに、日本社会を学ぶことのできる講座を開催します。
- (2) 日時：下表参照
- (3) 場所：山梨県立大学サテライト教室・研修室
- (4) 講師：安藤淑子（山梨県立大学国際政策学部）、原田かおり（山梨県立大学非常勤講師）、小林信子（ユニタス日本語学校非常勤講師）ほか
- (5) 実施状況：受講者数 22 人（出身・国籍別内訳 タイ：1人、ペルー：8人、チリ：1人、中国：4人、台湾1人、ボリビア3人、ベトナム3人、ブラジル1人）
（文責：安藤 淑子）

表 上級者向けコース実施状況

回	開催日	時間数	人数	会場	内容
1.	6月13日	2時間	15人	山梨県立大学 サテライト教室	「教育」に関する語彙／漢字の練習
2.	6月20日	2時間	9人	同上	講演者への質問表作成
3.	6月27日	2時間	14人	同上	日本の「お中元」についての読み物・漢字の練習
4.	7月4日	2時間	9人	同上	お中元のお礼状を書く・漢字の練習
5.	7月11日	2時間	8人	同上	葉書の書き方・暑中見舞いを書く・漢字の練習
6.	7月18日	2時間	12人	同上	外部講師による日本の学校制度に関する講演
7.	7月25日	2時間	11人	同上	作文練習1「わたし」・漢字の練習
8.	8月1日	2時間	11人	外部	前期のまとめ・意見交換会・交流会
9.	9月5日	2時間	11人	山梨県立大学 サテライト教室	作文練習1、発表・漢字の練習
10.	9月12日	2時間	7人	同上	作文練習2「私の部屋」・漢字の練習
11.	9月19日	2時間	8人	同上	作文練習2つづき・漢字の練習
12.	9月26日	2時間	10人	同上	作文練習2誤用訂正・漢字の練習
13.	10月17日	2時間	13人	同上	PC講座①「ワードで日本語の文章を作成する」

14.	10月24日	2時間	9人	同上	作文練習3「私の家族」・漢字の練習
15.	10月31日	2時間	8人	同上	PC講座②レイアウト、漢字変換・振り仮名をつける
16.	11月14日	2時間	5人	同上	作文3つづき・漢字の練習
17.	11月28日	2時間	8人	同上	作文4「私の国」・漢字の練習
18.	12月5日	2時間	7人	同上	作文4つづき・漢字の練習
19.	12月12日	2時間	7人	外部	日本文化（もちつき見学）
20.	12月19日	2時間	9人	山梨県立大学 サテライト教室	ノロウィルス・インフルエンザに関する注意文書
21.	1月23日	2時間	6人	同上	作文4つづき・漢字の練習
22.	1月30日	2時間	7人	同上	作文4発表・漢字の練習
23.	2月6日	2時間	4人	外部	意見交換会・交流会



講座風景



交流会風景

2. 甲府市幼児教育センター一月齢別講座（甲府市幼児教育センター）

1. 看護学部

(1) 趣旨：今年度は、「月齢別講座」の具体的なプログラムについて示唆を得ることを目的に、出席されたお母様方にご協力をいただき、「子どもに起こりやすい症状に対する家庭での親の認識」について、大久保講師を研究筆頭者としてお母様方を対象にアンケート調査を実施いたしました。この調査結果をもとに、子育ての中でお母様方がお困りのこと・気がかりなことが少しでも解決に近づけるような、お母様方のニーズに対応した講座内容を検討したいと考えています。

(2) 日時：表参照（表1）

(3) 場所：甲府市幼児教育センター

(4) 講師：表参照

（文責：田淵 和子）

表1 平成22年度甲府市幼児教育センター 月齢別講座一覧（看護学部担当）

●3～8ヶ月未満児		中央部		北部	
	テーマ	日程	講師	日程	講師
第1期	育児の気がかかり	7月1日	大久保講師	6月24日	茂手木講師
第2期	育児の気がかかり	10月28日	大久保講師	10月21日	茂手木講師
第3期	育児の気がかかり	1月27日	大久保講師	1月27日	茂手木講師
●8ヶ月～1歳3ヶ月未満児		中央部		北部	
第1期	育児の気がかかり	6月22日	井上教授	6月29日	田淵准教授
第2期	育児の気がかかり	10月26日	井上教授	10月27日	田淵准教授
第3期	育児の気がかかり	1月18日	井上教授	1月19日	田淵准教授
第1期	育児の気がかかり	7月6日	田淵准教授	アネシス（中道）	
第2期	育児の気がかかり	11月2日	田淵准教授		
第3期	育児の気がかかり	2月1日	田淵准教授		



8ヶ月～1歳3ヶ月未満児講座 終了記念写真

2. 人間福祉学部

(1) 趣旨：1歳3ヶ月～2歳児、2歳児コースは、人間福祉学部で担当し、中央部幼児教育センター、北部幼児教育センターの2か所で計15回行われました。(表2参照) 内容は大きく2つのタイプに分かれますが、ひとつは教員が講師を務める講座です。ここでは、それぞれ専門ジャンルの異なる教員がその専門性を活かし、研究で得た知見をわかりやすく、親しみやすくお伝えするよう、心がけています。様々な情報や体験の共有から、日常生活の中での楽しい子育てのヒントを見出していただけると願っております。もうひとつのタイプは、学生たちが参加する交流企画です。毎年、1年生は自作の遊具を持ち込み、初めての子育て支援活動に取り組みます。また2年生は劇発表を中心に、1時間の子育て支援活動を企画します。

(2) 日時：表参照

(3) 場所：中央部幼児教育センター、北部幼児教育センター

(4) 講師：表参照

(文責：古屋 祥子)

表2 平成21年度甲府市幼児教育センター 月齢別講座一覧（人間福祉学部担当）

1歳3ヶ月～2歳児		中央部	北部	
	日程	テーマ・講師	日程	テーマ・講師
第1期	7月2日	「わらべうたで遊ぼう」 沢登芙美子教授	7月2日	「わからずやさんとつきあうために」池田政子教授
第2期	10月22日	「わくわく動きあそび」 高野牧子准教授	10月29日	左同
第3期	2月4日	「わからずやさんとつきあうために」池田政子教授	1月21日	「ようこそ宇宙船地球号へ：国際人への第一歩」 山田千明教授
2歳児				
第1期	6月23日	「手を使う造形遊び」 古屋祥子講師	6月30日	「ようこそ宇宙船地球号へ：大切な2歳児」山田千明教授
	7月7日	「子どもの安全を考える」 堀井啓幸教授		
第2期	10月20日	「勇気づけの子育て—2歳児、初めてのジャンプをどう生かす?—」 坂本玲子教授		
	10月27日	「一緒に遊ぼう」人間形成学科1年 引率：池田充裕准教授	10月27日	
第3期	1月19日	「家庭における食育」 鳥居美佳子講師		
	1月26日	「劇遊び発表会」人間形成学科2年 引率：池田充裕准教授、高野准教授		

3. 「子育て食育講座」（進徳幼稚園）

- (1) テーマ：家庭でできる「味覚教育」
- (2) 日時：2010年7月1日（木）10：00～12：30
- (3) 場所：山梨県立大学 飯田キャンパス・調理実習室
- (4) 対象：進徳幼稚園 PTA 19名
- (5) 講師：山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科 講師 鳥居美佳子
- (6) 実施状況：受講者19名
 - 1) 講義…①味の生理学②料理選択教育と味覚の関係③日本の伝統的な「だし」を使った味覚教育
 - 2) 調理実習…「だし」を用いた旨味を味わうメニュー①駿河飯②すまし汁③あんかけ茶碗蒸し（応用：冷たい茶碗蒸し旨味ジュレかけ）④夏野菜の煮物
 - 3) 試食・味覚について考察

講義と調理実習を組み合わせることで、単なる調理・食事会でなく、食育の目的と手段を結びつけながら調理のポイントを習得する講座になったのではないかと思う。今後の企画への要望として、「お弁当」や「おやつ作り」など、貴重なご意見をいただきました。食育に対する関心の高さを実感することができ、本講座の今後の可能性を認識することができた。とくに「幼児と保護者一緒の調理実習」は、両者にとって非常に有用な研修となると思う。しかし、本学調理実習室は、子ども向けに整備されていないため、幼児が参加する講座については、安全管理が重大な課題であると考えている。

(文責：鳥居 美佳子)

4. 子育て支援リーダー養成研修（山梨県社会教育課）

- (1) 趣旨：「子育て支援リーダー養成研修」は、平成22年度より3カ年事業として山梨県社会教育課が主催し、山梨県立大学が実施機関となり、地域ぐるみの子育てを実現するために、講演とワークショップを用いて、地域の家庭教育・子育て支援のリーダーとして活動できる人材を養成した。その特徴は、実際に小グループが地域の実情に合わせて子育て支援に関わる企画をし、毎回のワークショップで準備を進め、各地域の教育事務所において実行、その結果を発表した。教育事務所とも連携、協働しつつ、子育て支援ネットワークをつなげることとなった。
- (2) 日時：表参照
- (3) 場所：山梨県立大学A館サテライト教室、県内教育事務所（第5回のみ）
- (4) 講師：表参照
- (5) 実施状況：今年度は、42名の修了生が誕生し、子育て支援のリーダーとして地域で活躍すると共に、多くの人々をネットワークで結び、地域の子育て支援の充実のために活躍してくださることを期待しています。

(文責：高野牧子)

表 平成22年度子育て支援リーダー養成研修

回	月 日	内 容	講師（所属）
1	6月25日（金）	テーマ「子育て支援の歩みと課題」	
		①開講式	
		②講演「子育て支援の歩みと課題 ～地域リーダーの役割～」	阿部真美子教授 （青山学院女子短期大学）
		③ワークショップ「からだをととしたコミュニケーション力」	高野牧子准教授 （山梨県立大学）
		④ワークショップ 「地域子育て支援者交流会にむけて（1）」	
2	7月9日（金）	テーマ「子どもの健康を守り育てる」	
		①講演「子どもの健康を守り育てる～食育をとおして～」 ②ワークショップ「子どもへの食育活動」	鳥居美佳子講師 （山梨県立大学）

	③ワークショップ 「地域子育て支援者交流会にむけて（２）」	
3	7月23日（金）	テーマ「虐待予防と対応策」
	①講演「子どものSOSを受けとめるに～私の幸せと心の傷」 ②ワークショップ（講演に対しての質疑・応答など）	佐野 優氏（社会的養護の当事者参加民間グループ「こもれび」代表）
	③ワークショップ 「地域子育て支援者交流会にむけて（３）」	
4	8月10日（火）	公開講座 テーマ「地域でつながる子育て支援」
	①地域子育て支援者交流会の準備（ワークショップ（４））	高野・池田
	②交流会	
	③講演「茅ヶ崎市の子育て支援の取り組み」	青木幸子氏（茅ヶ崎市家庭児童相談室相談員）
	④シンポジウム 司会 池田政子山梨県立大学教授	
	シンポジスト	一瀬礼子氏（市川三郷町いきいき健康課長） 星合深妃氏（HappySpaceゆうゆうゆう代表） 新津 幸氏（ENJOYロマンティックマザーズスタイル代表）
5	8～9月 各教育事務所	地域子育て支援者交流会（参加者；市町村子育て支援担当者・受講者・教育事務所職員・事務局 他）
6	9月24日（金）	テーマ「発達障がい児・発達が気になる子どもと親への支援」
	①講演「発達障がい児・発達が気になる子どもと親への支援」 ②ワークショップ	川池智子准教授（山梨県立大学）
	③ワークショップ 「地域子育て支援者交流会まとめ（５）」	
7	テーマ「子育て支援リーダーの役割」	
	①講演「『関係づくり』を育む支援者として～実践から考える」	清水正江氏（子育て支援グループ「ゆめこびと」代表）
	②報告会 「地域子育て支援者交流会報告会」	
	閉講式	



グループ討議風景



報告会風景

5. 地域子育て創生事業（富士河口湖町教育委員会）

(1) 趣旨：富士河口湖町が「山梨県安心こども基金」を活用した事業である。富士河口湖町教育委員会が主催、本学が共催した。富士河口湖町は、子ども未来創造館という子育て支援の拠点となる施設を中心に、子どもの年齢に応じた親子を対象とする子育て教室を開催するなど、子育て支援に積極的に取り組んでいる。地域拠点はああるが、子育て支援者自身がスキルアップする機会の提供が課題であり、こうした実情に応じた創意工夫のある子育て支援活動のための取組である。

本事業の目的は、子育て支援者のスキルアップを図り、子どもたちの健全育成に貢献でき、即戦力と協調性、企画力を有し、地域で中核となり活躍できる人材を創生することである。

(2) 日時：表参照

(3) 場所：子ども未来創造館音楽スタジオ、公開講座は中央公民館ホール

(4) 対象：地域の子育て支援拠点事業の従事者、及び放課後児童健全育成事業の指導員、保育士など

(5) 講師：表参照

(6) 実施状況：各回 30 名定員で、県立大学が担当した延べ受講者数は 181 名であった。受講者からは、専門的な知識を学ぶ良い機会であったと大変好評を得た。

(文責：高野 牧子)

表 平成 22 年度「地域子育て創生事業」講座内容

	日 時	テーマ	講 師（専門）
1	10月22日（金） 13:30～15:30	「子どもの健康 食育による支援」	山梨県立大学講師 鳥居美佳子氏（栄養学、管理栄養士）
2	10月26日（火） 13:30～15:30	「カウンセリング入門 ～寄り添いながら話を聞く術～」	山梨県立大学教授 坂本玲子氏（精神医学・精神保健）
3	10月29日（金） 13:30～15:30	「発達障がい児・発達が気になる子どもと親への支援」	山梨県立大学准教授 川池智子氏（児童・障がい児福祉）
4	11月5日（金） 13:30～15:30	「子どものからだ 発達と運動」	山梨県立大学准教授 高野牧子氏（舞踊教育学・体育）
5	11月12日（金） 13:30～15:30	「子どもの心 理解と援助」	山梨県立大学教授 池田政子氏（心理学・ジェンダー問題）
6	11月26日（金） 13:30～15:30	「世界の子育て事情を学ぶ」	山梨県立大学教授 山田千明氏（幼児教育、多文化教育）
7	12月1日（木） 13:30～15:00	「笑顔で子育て」	白梅学園大学学長 汐見稔幸氏

4. 【学部共催講座】

1. 「成年後見法施行10周年記念講演会」(国際政策学部・山梨県立大学教育GP)

- (1) 趣旨：地域の高齢者や介護にかかわる人々、また、将来の自身の問題として、財産管理を誰に託すかということは地域の問題でもある。このような問題に着目し、成年後見法施行10周年を記念して、「あなたの財産は誰に託しますか? ―超高齢化社会における地域連携と法―」と題した講演会を開催した。今回は高齢者の財産管理における現状と問題点、地域社会における様々な活動の紹介、そして、司法・行政・地域の結集による新たな取り組みを取り上げる。
- (2) 日時：平成22年7月23日18:00~19:30
- (3) 場所：山梨県立大学 飯田キャンパス講堂
- (4) 講師：新井 誠氏 (筑波大学法科大学院教授)
コーディネーター：澁谷 彰久 (山梨県立大学国際政策学部教授)
- (5) 実施状況：84名
アンケートでは、約9割の回答者が「大変面白かった」あるいは「面白かった」と答えており、大変好評であった。

(文責：安達 義通)

2. ソーシャルワーカーリカレント講座 (人間福祉学部)

- (1) 趣旨：今年度の上記講座は、地域や組織へのマクロソーシャルワークのアセスメント視点や分析方法を学ぶことを目的に実施した、今回のテーマは講義だけでなく演習によりさらに深く学べるが、時間制限があったため講義だけの企画とした。
- (2) 日時：平成22年11月29日(月)18:10-20:10
- (3) 場所：山梨県立大学A館サテライト教室
- (4) 講師：田中英樹先生 (早稲田大学人間科学学術院 教授)
テーマ：「BSCとSWOT分析～組織マネジメントと地域マネジメントの新しい手法」
座長：寺谷隆子 (山梨県立大学特任教授)
- (5) 実施状況：参加者数48名 (内訳：ソーシャルワーク実務者17名、学生30名、教員1名)

(文責：神山 裕美)



講座風景

3. 第4回 子育て支援フォーラム（人間福祉学部）

(1) 趣旨：子育て中の親とそれを支援する人々、支援者になる学生たち、保育者などに子育て支援について考える場を提供することにより、本県の子育て支援の質の向上を図る。

(2) 対象：本学学生・教職員、子育て当事者、子育て支援者、保育者等

(3) 日時等：2010年10月12日（火）13:30～15:30

主催：山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科

共催：山梨県立大学地域研究交流センター

協力：山梨県立大学図書館

参加費：無料 託児：あり（9名が利用）

(4) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂

(5) 講師：もりひさし氏（絵本作家、日本児童文学者協会名誉会員、日本女子大学等元講師、共栄学園短期大学元教授）

司会・コーディネーター：山田千明（人間福祉学部教授）

(6) 実施状況：参加者：120名（内訳）一般参加者44名（山梨県私立幼稚園協会10年経験者研修対象者、保育園・子育て支援・図書館関係者等）、本学学生64名、本学教職員12名



◆プログラム：

- ・図書館からのお知らせ、開会のあいさつ（藤谷 秀）、講師紹介、講演、閉会のあいさつ（沢登 芙美子）
- ・講演会終了後、「もりひさし先生と語る会」を開催（約1時間半、於B318教職指導室、参加者約20名）。

今年度は「絵本『はらぺこ あおむし』のおはなし」というテーマでこの作品の翻訳者で絵本作家のもりひさし氏に、翻訳当時の様子や作者のエリック・カール氏が絵本に込めた思いなどについてご講演いただいた。ラジオ等で開催案内があったこともあり、図書館関係者等、幅広い参加者を得、受講後のアンケートでは、回答者103名の内、「とてもよかった」81名（79%）、「よかった」18名（17%）（「無回答」4名）と、参加者にとって楽しい講演会となった。

さらに、2010年10月27日付山梨日日新聞では「絵本は子どもの心を映す」と、本学でのもり氏の講演内容が報道された。

（文責：山田 千明）

4. 第4回 保育リカレント講座（人間福祉学部）

- (1) 趣旨：現場の保育者・子育て支援者等に研修の場を提供することによって、本県の保育・幼児教育の質の向上を図る。19～21年度に続き、第4回を開催。
- (2) 対象：幼稚園教諭・保育士・子育て支援者・本学学生・その他 定員：40名
- (3) 日時等：2011年1月22日（土）午後2時～5時
共催：人間福祉学部人間形成学科・地域研究交流センター
連携：山梨県私立幼稚園協会
- (4) 場所：山梨県立大学 飯田キャンパス B館 120教室
- (5) 講師：月下和恵氏（パネルシアター作家、日本基督教団志木教会附属泉幼稚園教諭、淑徳幼児教育専門学校等講師。代表作「カレーライスのうた」）
司会・コーディネーター：池田政子（人間福祉学部教授）
 - ①「しかけ」等、マジック的なパネルシアターの展開を講師が実際に演じながら、子どもたちと楽しくコミュニケーションをとるための基礎的な技法を講義。
 - ②参加者自身が絵人形を作って演じ、講師が助言。
- (6) 実施状況：参加人数 子育て支援関係者 55名、本学学生6名、学科教員5名 <合計66名>。参加者アンケート58名の回答のうち、「とてもよかった」50名、「よかった」5名と、受講者の満足度は非常に高かった。



（文責：池田 政子）

講座風景

5. 人間福祉学部講演会（フォーラム）

- (1) 趣旨：地域研究交流センター、人間福祉学部、学生自治会との共催で「フォーラム つながりあう福祉社会を求めて」『第一弾 ひとと関わりあう仕事:その魅力の光と影』を開催した。このフォーラムは、学生、福祉・保育現場の専門職、大学教員の三者で企画し、学生もパネリストに起用したという、新たな試みに満ちた事業であった。
- (2) 日時：2011年2月5日（土）午後:1時～3時20分
- (3) 場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂
- (4) パネラー:石川朝美（幼稚園副園長）、神吉まゆみ（精神科ソーシャルワーカー）、金子

美由樹（人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 学生）、藤田彩香（人間福祉学部 人間形成学科 学生）、藤谷秀（人間福祉学部学部長）

モデレーター：川池智子（人間福祉学部准教授）

（5）実施状況：参加者は本学学生を中心に、福祉・保育現場の専門職（卒業生を含む）、本学教員、障害当事者、地域住民、高校生など、134名であった。

様々な立場の人たちが一同に会し、魅力はあるけれども、難しさもある、人と関わる仕事について、語り合った。また、福祉・保育をめざす学生・生徒と専門職がどのように学びあい、地域貢献していけるか、といった課題についてフロアーも含め活発な意見が交わされた。

（文責：川池 智子）

6. 「健康講座」（看護学部）

（1）テーマ：「笑いで生き生き！人生はつらっ！－医療・健康不安解消のためのライフ・プラン－」

（2）対象：地域住民、県立大学学生および教職員

（3）日時：2011年11月27日（土）14：00-16：00

（4）場所：山梨県立大学飯田キャンパス A館サテライト教室

（5）講師：笑医塾塾長 高柳和江氏（東京医療保健大学教授）

（6）実施状況：受講者数：87名

本講座では、県民の健康生活へのニーズに応えることを目的として、笑いの医学的効用について外部講師に講演を依頼した。「心からの笑い、質のよい笑い」で心身の健康を回復し、長生きをする秘訣についてわかりやすくお話をしていただいた。

相手の心に寄り添い、ほほ笑みを引き出すポイントとして、

- 1) 自分のことを好きになる
- 2) 相手の良いところを見つける
- 3) 苦境に立たされた人の心に寄り添う
- 4) 苦しい時にもチャレンジ精神で前向きに考える
- 5) 否定的な発言をする際にも、相手の笑顔を失わせない
- 6) 眼差しに愛情をこめてメッセージを送る
- 7) 「ありがとう」と感謝する、という具体的な実践方法についてお話いただいた。

当日の参加者からは「素晴らしい時間をありがとうございました」というコメントが寄せられ、事後のアンケート結果においても、87名の参加者の内82名(94%)から「大変面白かった・面白かった」という回答があった。



（文責：杉田 由仁）

7. カウンセリング基礎研修（看護学部）

- (1) 趣旨：「ラボラトリー方式による体験学習」を用いて、カウンセリングの基礎の学習を行う。研修の目的は、下記の通りである。
- ・ 「自分」を様々な角度から点検する
 - ・ “今ここ”で他者と関わることによって、自分の対人関係力やコミュニケーション力に気づく
 - ・ カウンセリングの基本を体験を通して学ぶ
- (2) 対象者：対人援助職に就いている方（教員、臨床心理士、スクールカウンセラー、保育士、子育て支援員、看護師）
- (3) 日時：下表参照
- (4) 場所：山梨県立大学池田キャンパス
- (5) 講師：文珠 紀久野（山梨県立大学看護学部教授）
- (5) 実施状況：1回14人、2回11人、3回13人、4回10人、5回10人

第一回	6月12日（土）	13時半～17時
*研修のオリエンテーションとお互いに知り合うためのエクササイズを実施 *「カウンセリングとは何」についての講義		
第二回	7月31日（土）	10時～18時
*「自分」をさまざまな角度より点検し、自分に気づくエクササイズを実施 *自分のコミュニケーションや対人関係のあり方を検討するエクササイズを実施 *「フィードバックと自己開示」について講義		
第三回	8月28日（土）	13時半～17時
*相手を真に理解するための関わりを学ぶエクササイズを実施 *「出会いが生まれるために」について講義		
第四回	11月13日（土）	13時半～17時
*じっくり話し合うことを通して、自分のコミュニケーションに気づくエクササイズを実施 *「カウンセラーの価値観」がクライアントに与える影響について講義		
第五回	12月11日（土）	13時半～17時
*これまでの研修をふりかえり、気づいた自分を表現するエクササイズを実施 *「カウンセラーにとって自分を知ることとは」について講義		

（文責：文珠 紀久野）

地域研究部門

1. 地域研究部門事業の概要

地域研究交流センター(以下、センター)では、地域が抱えるさまざまな課題の解決および地域文化の発掘・継承に向けて研究事業を実施しており、研究事業にはプロジェクト研究事業と共同研究事業がある。本部門では、これらの事業の企画や事業の発展に向けた研究報告会の提案等、センター運営会議で協議する準備を実施した。部門ミーティングは6回開催した。

(1) プロジェクト研究事業

4月の地域研究交流センター運営委員会にて、平成22年度のプロジェクト研究事業として、以下の4件を指定し、5月教授会にて研究者を募集した。これらのうち、①、③、④は、前年度までの研究成果を踏まえ、内容を深め、新たな課題解決に向けて取り組む形で、プロジェクト研究として引き続き指定された。③については、平成21年度は共同研究であったが、地域文化の伝承という観点から、22年度のプロジェクト研究にふさわしいとの見解から指定されることとなった。

- ①大学と地域の連携による多文化共生推進プロジェクト
- ②地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について
—甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発—
- ③よつびし総研プロジェクト2010
—よつびし総研による甲府中心市街地活性化事業—
- ④青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究 2

(2) 共同研究事業

共同研究事業は、当センターが学内の教職員から募集する研究事業である。プロジェクト研究同様に、5月教授会にて研究を募集した。応募があった中から、選考委員会(6月9日開催)にて以下の7件が採択された。

- ①山梨県産業金融史
—「若尾財閥地所部決算報告」分析を中心に—
- ②個人観光客に対応したユニバーサルデザインによる
着地型観光ルートマップのモデル開発に関する研究
- ③山梨企業の中国進出の動向と課題
- ④障害者自立支援法時代の基礎自治体における地域生活支援の人材開発：
山梨モデルの研究—その2
- ⑤やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト
- ⑥看護学生との交流による地域リーダー高齢者の活動への満足度・心理・若者像
の変化—
- ⑦森の力を活かした女性の健康プロモーション

これらの研究目的・方法・成果等の詳細は、それぞれの研究報告書をご覧ください。なお、プロジェクト研究③、ならびに共同研究②、④、⑦の4件については、活動報告書として合本製本としています。

（３）研究報告会の開催

研究事業の発展に向けて今年度より研究報告会を開催することとした。開催日時は、3月17日(木)13:30～18:00で、プロジェクト研究ならびに共同研究の成果を地域の皆様に情報発信する準備を進め、ポスターやチラシを作成し配布した。しかし、3月11日に発災した東北・関東大震災に配慮して延期することとなった。3月末センター運営会議にて、5月18日(水)18:30～20:30に分科会形式で開催することを決定した。

（４）センター研究事業の要項の見直し

現在センターの研究事業は、「山梨県立大学地域研究交流センター地域研究事業の実施に関する要項」に基づいて実施されている。研究事業の内容は、目的にそってデータを収集・分析して新たな知見を見出し、学問の発展や実践に寄与するものが多くあるが、一方で実践活動を主体とし、そのことが地域の課題解決につながる事業も多くあることから、「研究事業」と「活動事業」の両事業が成り立つように要項の見直しを実施した。

2. 地域研究部門事業の実績と課題について

今年度は、プロジェクト研究4件、共同研究7件、計11件の研究事業が実施できるよう支援してきた。これらの研究成果を今年度初めて開催する予定だった研究報告会は、平成23年5月18日に延期となったが、本学のホームページで延期を速報する等して対応した。この研究報告会は、本研究事業の成果を参加者から直接聞く絶好の機会であり、事業評価として意義のあるものと考えられる。今年度の実績評価に成果を加えることができなかつたのは残念であるが、5月を楽しみに待つこととした。

また、今年度は研究報告書の作成について、活動中心の研究事業については活動報告書として合本製本とし予算を節約した。

さらに、センター研究事業の要項を見直したことが、次年度からの「研究事業」や「活動事業」を活性化させ、より一層の地域貢献へとつながることを期待したい。

(文責 清水恵子)

戦略開発部門

1. 部門事業の概要

(1) GP 開発部門の引き継ぎ業務

昨年度まで教育改善・開発部門内にあった GP 開発部門業務の継承。

(2) 外部資金獲得の促進業務

各種補助金・助成金や懸賞金その他の情報を収集し、また学内教員へ広報する。

(3) 県立大学講座（汎用プログラム）の開発と広報業務

県内市町村で実施可能な県立大学講座の汎用プログラムを作成し、かつ広報して、大学の資金獲得に寄与する。

(4) 包括協定に基づく新規事業

①甲府市との包括連携協定との関係から「やまなし映画祭」の事務局を大学で受けることとなり、3月開催に向けて11月から準備を開始した。

しかし、東北関東大震災による計画停電により、確実な実施対応ができない理由から、中止となった。（詳細を別途記述する）

②甲府市から「甲府市中心街歩行量調査」を受託した。この件は、「よつびし総研プロジェクト2010」の調査研究事業として実施された。（歩行量調査結果の概要については、合本版『活動報告書』を参照のこと）。

③甲府商工会議所および忍野村との事業はなかった。

2. 事業部門の実績と課題について

昨年度まで教育改善・開発部門に内包されていた GP 開発部門の業務を発展的に継承するというで新たに発足したのが戦略開発部門である。

本年度は、2008～2010年度「質の高い大学推進プログラム（教育GP）」に採択された「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト」（看護学部・人間福祉学部）の最終年度にあたった。本部門（旧GP開発部門から継承）の成果としては、「課題対応型SL（サービステーキング）による公立大学新教育モデル～SLを活用した大学の地域貢献と学生教育の質の向上～」(国際政策学部)が、2010～2013年度「大学教育推進プログラム」に採択されたことである。このようにGPの申請にあたってサポートするのが、旧GP開発部門から継承した本部門の事業であるが、2011年度新規申請に向けた動きは特になかった。

外部資金獲得の促進業務については、初めての取り組みということで、本年度はまず、総務課で収集・配信している情報の整理と教員への広報をすることになった。

さらに、県立大学講座（汎用プログラム）の開発と広報業務についても、初の試みであったが、「富士川町『地元力』増進講座 with 山梨県立大学－富士川町起点の元気印やまなしー」（主催：山梨県立大学、富士川町、共催：「峡南の歴史と文化を学ぶ会」、後援：NPO 富士川町 夢 未来、富士川町商工会、(社)峡南青年会議所、社会教育の会峡南支部、富士川フエ

ンクラブ) の開催・運営に漕ぎ着けたことが成果として挙げられる。

関連事項として、①丹波山村への学長によるトップセールス(9月24日<金>丹波山村役場で学長が講演、大学関係者13名が出席。講演会后、懇親会<意見交換会>を開催、その後、山梨県立大学と総務省等との協力で丹波山村の事業として丹波山村のCMづくりを実施)、②富士急グループ・ハイランドリゾートホテル社からの大学との連携オファー(9月16日<木>、学長室にて先方の総務部次長と、学長・波木井理事・前澤センター長・垣内次長とが、大学とホテルとの連携可能性を模索)を挙げておく。

なお、課題としては、発足したばかりの部門であったので、事業内容が定まっておらず、今年度は、試行錯誤を繰り返しながら、ある意味手探りで活動してきた。来年度は、上記の成果を踏まえたうえで、戦略開発部門の事業を引き続き確立していく必要がある。

【1. 新規G P申請のサポート】

前述したように、本年度は、2008～2010年度「質の高い大学推進プログラム(教育G P)」に採択された「学際統合型専門職連携教育開発プロジェクト」(看護学部・人間福祉学部)の最終年度にあたる。

本年度の戦略開発部門(旧G P開発部門から継承)の成果としては、「課題対応型S L(サベスタニング)による公立大学新教育モデル～S Lを活用した大学の地域貢献と学生教育の質の向上～」(国際政策学部)が、2010～2013年度「大学教育推進プログラム」に採択されたことである。

なお、G Pの申請にあたってサポートするのが、旧G P開発部門から継承した本部門の事業であるが、2011年度新規申請に向けた動きは特になかった。

【2. 外部資金獲得の促進事業】

本年度発足した戦略開発部門の新規事業として、外部資金獲得のための促進事業に着手した。総務課(担当:小尾)で収集・配信している情報の整理とその情報の教員への広報活動がその主な業務となった。具体的には、総務課からメール配信される情報を各委員が必ずチェックして、該当すると思われる教員または学部・学科への周知を徹底する(教員に直接資料を配付する、もしくは学科会議で回覧してもらう等)こととした。

以下に例示する。

- ・「財団法人日本証券奨学財団 平成22年度研究調査助成募集」を国際政策学部2学科の学科会議で周知(回覧)。
- ・「平成22年度国際共同に基づく日本研究推進事業」を国際政策学部の張准教授に配付。
- ・「平成23年度第6回児童教育実践についての研究助成事業」を人間福祉学部人間形成学科の学科会議で周知(回覧)。
- ・「アジア地域重点学術研究助成募集(財)平和中島財団」、「外国人研究者等招致助成募集(財)平和中島財団」、「国際学術共同研究助成募集(財)平和中島財団」を国際政策学部2学科の学科会議で周知(回覧)。

さらに、総務課で収集しきれない情報についても注意を払ってその情報を収集・整理して、教員に広報することにも取り組むこととしたが、具体的には進展しなかった。

【3. 県立大学講座（汎用プログラム）の開発と広報業務】

この業務も初の試みであったが、「富士川町『地元力』増進講座 with 山梨県立大学～富士川町起点の元気印やまなし」を開催・運営した。以下に概要を紹介する。

1. 運営主体

主催：山梨県立大学、富士川町、共催：「峡南の歴史と文化を学ぶ会」

後援：NPO 富士川町 夢 未来、富士川町商工会、(社)峡南青年会議所
社会教育の会峡南支部 富士川ファンクラブ

2. 業務分担

◇山梨県立大学

・企画（「峡南の歴史と文化を学ぶ会」と共同企画）および人選と人材派遣

◇富士川町

・運営：大学サイドは企画と講師派遣のみを担当し、他の業務を富士川町に一任
・予算：講師料（交通費を含め）、事務管理費（プロモーター料を含む）

◇「峡南の歴史と文化を学ぶ会」

・山梨県立大学と共同企画、富士川町と共同運営

3. 講座内容等

名称：富士川町「地元力」増進講座 with 山梨県立大学～富士川町起点の元気印やまなし

会場：富士川町・町民会館 3階ホール（富士川町青柳町 338-8 Tel：0556-22-7212）

1) 7月24日（土）13:00～15:00 【オープニング・セレモニーと第一回講座】

■「私たちは何処から来て、何処へ行くのか？」

◇講師：伊藤洋 学長（山梨県立大学理事長）

2) 8月21日（土）13:00～15:00

■「地域社会の形成 ～町場と山村」－時代の変遷を学ぶ その1 合併の歴史－

◇講師：斉藤康彦 教授（山梨大学人間教育学部）、長澤次雄氏（富士川町）

3) 9月4日（土）13:00～15:00

■「近世・近代甲斐の教育」－時代の変遷を学ぶ その2－

◇講師：平山優氏（山梨県博物館・資料情報担当）

4) 9月25日（土）13:00～15:00

■「山梨産業金融史 ～幕末から明治」－時代の変遷を学ぶ その3－

◇講師：黒羽雅子教授（山梨県立大学国際政策学部）

5) 10月16日（土）13:00～15:00

■「在宅医療を支える」

◇講師：佐藤悦子教授（山梨県立大学看護学部・学部長）

6) 11月13日（土）13:00～15:00

■「地域資源を活かしたビジネス展開の可能性～甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発」

◇講師：斎藤秀子教授（山梨県立大学人間福祉学部・図書館長）、波木井昇理事

7) 11月27日（土）9:30～16:00 （波木井理事と学生5名参加）

■フィールドワーク「自然環境と私たちの生活」「発展を続ける企業の戦略」

◇富士川大橋見学「富士川の治水・富士川町東部の展望」（望月誠一氏・堀内尚巳氏）
ジット本社見学「わが社の歴史・現状・展望」（小宮山かおり氏）

はくばく本社見学「わが社の歴史・現状・展望」(遠藤好司氏)

増穂ふるさと自然塾見学「野生鳥獣と共生に向けて・楡形山の今とその後」

(阿部光穂氏・工藤一弘氏)

8) 1月29日(土) 12:00~15:00

■シンポジウム「新しい公共を模索 ー 峡南地域の展望」

◇コーディネーター：長澤利久理事長(〈特非〉富士川・夢・未来)

パネリスト：伊藤洋学長(山梨県立大学)

野田金男理事長(やまなし観光推進機構)

岩間湛教住職(昌福寺)

(文責：熊谷隆一)

【4. 包括連携協定に基づく事業「やまなし映画祭」】

今年から山梨県立大学が「やまなし映画祭」に協力して実施することになった。伊藤洋学長が実行委員長に就任し、地域研究交流センターが事務局を担当した。その理由は以下の通り。

- ① 甲府市との包括連携協定を結んでおり、その一事業と位置付けられること。
- ② この映画祭が「中心市街地活性化」という地域課題解決事業であること。
- ③ この活動に学生が主体的に参加し、多くの学習効果が期待できること。
- ④ 公立大学の新しい地域との協働関係を結ぶ実験的な試みであること。

3月18日~20日、26日~27日に実施に向けて、全ての準備を終えていたが、東北大地震による計画停電によって、上映やゲスト招聘が困難になったため、残念ながら中止となった。

資料 <やまなし映画祭 2010 概要>

1. 企画目的

本企画は、甲府市中心市街地活性化基本計画の事業として、2005年から開催されている「やまなし映画祭」のリニューアルを行い、甲府市中心街の各会場で広域的にイベントを展開する。映画人や映画ファンなど多くの人々が甲府市に集ってもらい、甲府市中心街活性化を目指すものである。

今回、山梨県立大学に事務局を置いたが、日本に約150あると言われる映画祭で唯一のことである。大学がさらに地域との関係を深め、協働事業を行う新規的な取り組みの第1歩である。

2. イベントタイトル やまなし映画祭2010 英語表記：YAMANASHI FILM FESTIVAL

3. 目標 観客動員延べ1000人以上を目指す。

4. キャッチコピー For people who love movies すべては映画ファンのために

5. 対象 県内はもちろんだが、できるだけ多くの県外からの来場を目指す

6. イベント形式 映画上映、トークショー、シンポジウム、パーティなどで構成

7. 開催日 2011年3月18(金)、19日(土)、20日(日)、26日(土)

8. 開催場所 岡島百貨店、甲宝シネマ、オリオンスクエア、JR甲府駅北口など

9. 告知・PR 山梨県政記者クラブを始めとした県内外の報道機関へのプレスリリース、ホームページの作成、ミクシィやツイッターなどの活用による告知を行う。

10. 組織 新たに実行委員会を組織し、事務局を県立大地域研究交流センターに置く。

実行委員長 伊藤 洋（山梨県立大学学長）

実行委員 前澤哲爾（山梨県立大学教授）、山崎利明（山梨中央銀行営業統括部 公務・法人担当部長）、久保田直樹（株式会社岡島 執行役員 営業推進部長）、大木 政（甲府市観光協会会長）、大森 泉（山梨県興行生活衛生同業組合理事長）、興石 陽（甲府城南商店街振興組合理事長）、早川高仁（社会福祉法人甲府市民生福祉会 養護老人ホーム春風寮事務長）、篠原大成（映画制作関係者）、数野 守（甲府市産業部長）

11. 予算（約 200 万円規模）

甲府市、甲府商工会議所からの事業補助金計 1 3 0 万円および入場料収入

12. チケット販売

3 月 18 日「キングコング対ゴジラ」無料、3 月 19 日、20 日 1 日通し券 1000 円

3 月 26 日「キャタピラー」「孤高のメス」各 1000 円、「ヤーチャイカ」2000 円

<上映事業内容>

1. 東宝プロデューサー田中友幸生誕 1 0 0 周年企画「東宝特撮映画」イベント

（18 日+19 日）『キングコング対ゴジラ』上映+「東宝特撮ファンミーティング」

ゲスト：富山省吾（東宝映画前社長）、中野昭慶（映画監督）、樋口真嗣（映画監督）、原口智生（映画監督）、清水俊文（映画監督）

2. 写真映画『ヤーチャイカ』作品上映+トーク（26 日）

ゲスト：谷川俊太郎（監督） 覚和歌子（監督）

3. 山梨初上映『キャタピラー』（ベルリン映画祭主演女優賞獲得作品）上映と

トーク（26 日）ゲスト：若松孝二（監督）、篠原勝之（出演者・鉄のゲージツ家）

4. 甲府出身監督の『孤高のメス』作品上映+トーク（26 日）ゲスト：成島出（監督）

5. オムニバス映画「PLUS ONE VOL. 3」上映+トーク（19 日）

『驚かささないでよ！！』監督：山川直人、『今夜のメニュー』監督：富樫森

『下校するにはまだ早い』監督：篠原哲雄、『鶴園家のめまい』監督：熊切和嘉

ゲスト：篠原哲雄（監督）

6. 次世代の映画監督たち～ゆうばりファンタ受賞作品連続上映（20 日）

『脚の生えたおたまじゃくし』監督：前野朋哉、『電話番号が必要だ』

『大拳銃』監督：大畑創、『サムライ・アベンジャー復讐剣盲狼』監督：光武蔵人

ゲスト：塩田時敏（映画評論家・「ゆうばりファンタ」オフシアターディレクター）

<発表報告事業内容>

山梨県立大学地域活動報告会（19 日）

①「映画による脳活性化研究」中間報告

②文科省採択「課題対応型サービスラーニングによる公立大学新教育モデル」事業シンポジウムと学生による成果発表会

<ゲスト交流パーティ>

19 日、20 日、26 日、上映会場近くで毎夜交流パーティを開催

<映画祭プロモーション>

3 月 6 日 甲府駅北口スペースで、アニメ上映などを含めたイベントを開催

（文責：前澤哲爾）

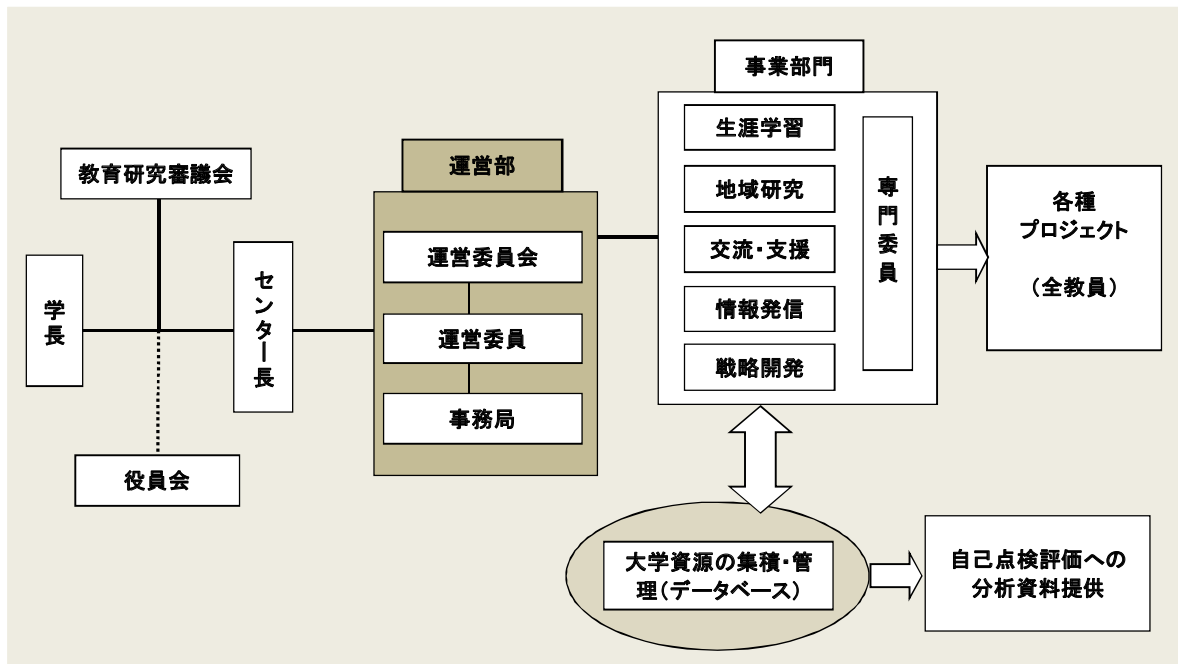
事務局

1. 運営委員会記録

1. 第1回 平成22年4月20日（火）
主な協議・報告事項：組織変更、予算、計画／甲府市との包括連携協定の締結について
2. 第2回 平成22年5月11日（火）
主な協議・報告事項：平成22年度地域研究交流センター地域研究事業の募集について／富士川町との連携事業について
3. 第3回 平成22年6月1日（火）
主な協議・報告事項：春期総合講座の開催報告とコミカレの実施について／地域研究事業の応募状況
4. 第4回 平成22年6月22日（火）
主な協議・報告事項：プロジェクト研究の実施・共同研究の選定結果等について／センター発行紙「ニューズレター」の掲載内容等について
5. 第5回 平成22年7月13日（火）
主な協議・報告事項：プロジェクト研究の予算配分／県立大学「富士川町講座」の実施について
6. 第6回 平成22年8月3日（火）
主な協議・報告事項：地域自治会との情報交換会の開催報告／観光講座の開催について
7. 第7回 平成22年9月29日（火）
主な協議・報告事項：南アルプス市芦安地区の地域振興への協力要請について／平成22年度文部科学省「大学教育推進プログラム」の採択について
8. 第8回 平成22年10月26日（火）
主な協議・報告事項：丹波山村の地域振興への協力要請について／自己点検評価、年度計画への対応について
9. 第9回 平成22年11月24日（火）
主な協議・報告事項：学生優秀地域プロジェクトの認定／授業開放講座の開催について
10. 第10回 平成22年12月22日（火）
主な協議・報告事項：地域研究交流センター研究報告会の開催について／やまなし映画祭への協力について
11. 第11回 平成23年1月25日（火）
主な協議・報告事項：平成23年度予算案の提出について／地域研究交流センター事務室の機能強化について
12. 第12回 平成23年2月23日（火）
主な協議・報告事項：平成22年度の年度計画の実施報告／2010年度地域研究交流センター研究報告書の作成について
13. 第13回 平成23年3月23日（水）
主な協議・報告事項：公開講座実施について／地域再生ファシリテーター養成講座について／イベント・報告会の中止・延期について

2. 組織図・委員名簿

(1) 組織図



(2) 委員名簿

		総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニティ学科	人間形成学科	看護学科
地域研究交流センター 運営委員会		熊谷 安達 箕浦	前澤 安藤	神山 川池 大塚	堀井	清水 望月(宗)
事業部門 (専門委員)	交流・支援	○箕浦	吉田(均)	◎川池 下村		小林(た) 渡邊(裕)
	情報発信	◎箕浦	八代	○大塚	池田(充)	山田 大久保
	生涯学習	黒羽 安達	◎安藤 前澤	○神山	山田	杉田 平田
	地域研究	○安達	張	大塚		◎清水 五味
	戦略開発	◎熊谷	張	斉藤		○望月(宗)
特別担当	看護・福祉専門職支援コーディネーター		下村		小林(た)	

運営委員は専門委員を兼務 ◎部門長 ○副部門長

下線 運営委員以外の専門委員

3. 地域研究交流センター委員一覧

(運営委員 ＊)

学部	学科	氏名	専門領域
国際政策学部	総合政策学科	熊谷隆一＊	地方行政・地方財政
		安達義通＊	地域振興
		箕浦一哉＊	環境社会学
		黒羽雅子	経営史・金融論
	国際コミュニケーション学科	前澤哲爾＊	メディア論（映像）
		安藤淑子＊	日本語教育
		八代一浩	情報通信
		張兵	中国史・中国経済・アジア事情
		吉田均	国際開発・国際協力
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	神山裕美＊
川池智子＊			社会福祉原論、児童・障害者福祉
大塚ゆかり＊			精神保健福祉
斉藤秀子			被服環境学
下村幸仁			社会保障論
人間形成学科		堀井啓幸＊	教育学・教育経営
		山田千明	幼児教育学・多文化保育
	池田充裕	教育学・比較教育	
看護学部	看護学科	清水恵子＊	精神看護学
		望月宗一郎＊	地域看護学
		山田光子	精神看護学
		渡邊裕子	老年看護学
		小林たつ子	基礎看護学
		大久保ひろ美	小児看護学
		杉田由仁	外国語
		平田良江	母性看護学
		五味千帆	基礎看護学

資料 1. 年間の時系列記録

月日	事業・行事名	部門名
2010年4月20日	地域研究交流センター第1回運営委員会	
2010年5月6日	第1回地域研究部門ミーティング	地域研究
2010年5月8日	YPU SUMMIT Spring「地域における大学の力」	生涯学習
2010年5月11日	地域研究交流センター第2回運営委員会	
2010年5月15日	春季総合講座 ～最前線シリーズ～ 第一回	生涯学習
2010年5月29日	春季総合講座 ～最前線シリーズ～ 第二回	生涯学習
2010年5月31日	第2回地域研究部門ミーティング	地域研究
2010年6月1日	地域研究交流センター第3回運営委員会	
2010年6月5日	春季総合講座 ～最前線シリーズ～ 第三回	生涯学習
2010年6月9日	センター共同研究選考委員会開催	地域研究
2010年6月12日	カウンセリング基礎研修第一回(看護学部)	生涯学習
2010年6月13日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年6月20日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年6月22日	地域研究交流センター第4回運営委員会	
2010年6月22日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年6月23日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年6月24日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年6月25日	子育て支援リーダー養成研修	生涯学習
2010年6月27日	日本語・日本文化講座	生涯学習

2010年6月29日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年6月30日	第3回地域研究部門ミーティング	地域研究
2010年6月30日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年7月1日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年7月2日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年7月4日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年7月6日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年7月7日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年7月9日	地域自治会との情報交換会	交流・支援
2010年7月9日	子育て支援リーダー養成研修	生涯学習
2010年7月11日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年7月13日	地域研究交流センター第5回運営委員会	
2010年7月18日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年7月23日	子育て支援リーダー養成研修	生涯学習
2010年7月23日	「成年後見法施行10周年記念講演会」(国際政策学部)	生涯学習
2010年7月25日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年7月31日	カウンセリング基礎研修第二回(看護学部)	生涯学習
2010年8月1日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年8月3日	地域研究交流センター第6回運営委員会	
2010年8月10日	子育て支援リーダー養成研修	生涯学習
2010年8月28日	カウンセリング基礎研修第三回(看護学部)	生涯学習

2010年9月5日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年9月12日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年9月19日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年9月24日	子育て支援リーダー養成研修	生涯学習
2010年9月26日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年9月29日	地域研究交流センター第7回運営委員会	
2010年9月30日	地域研究交流センターニュースレター「tobira」Vol.11発行	情報発信
2010年10月12日	子育て支援フォーラム(人間福祉学部)	生涯学習
2010年10月16日	観光講座「とことん語ろう！観光ビジネス」第一回	生涯学習
2010/10/16・17日	池田地区文化祭への協力	交流・支援
2010年10月17日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年10月20日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年10月21日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年10月22日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年10月22日	地域子育て創生事業	生涯学習
2010年10月23日	観光講座「とことん語ろう！観光ビジネス」第二回	生涯学習
2010年10月24日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年10月26日	地域研究交流センター第8回運営委員会	
2010年10月26日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年10月26日	地域子育て創生事業	生涯学習
2010年10月27日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習

2010年10月27日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年10月28日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年10月29日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年10月29日	地域子育て創生事業	生涯学習
2010年10月31日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年11月2日	第4回地域研究部門ミーティング	地域研究
2010年11月2日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2010年11月5日	地域子育て創生事業	生涯学習
2010年11月6日・7日	富桜祭で福祉専門職交流コーナー設置	交流・支援
2010年11月12日	地域子育て創生事業	生涯学習
2010年11月13日	カウンセリング基礎研修第四回(看護学部)	生涯学習
2010年11月14日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年11月24日	地域研究交流センター第9回運営委員会	
2010年11月26日	地域子育て創生事業	生涯学習
2010年11月27日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「あなたの不安を解消するためのライフ・プラン講座」第一回・健康講座(看護)	生涯学習
2010年11月28日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年11月29日	ソーシャルワーカーリカレント講座(人間福祉学部)	生涯学習
2010年12月1日	デザイン講座「身の周りを解体する」第一回	生涯学習
2010年12月1日	地域子育て創生事業	生涯学習
2010年12月5日	県民コミュニティカレッジ広域ベース講座「地域の国際化がもたらす可能性」	生涯学習
2010年12月5日	日本語・日本文化講座	生涯学習

2010年12月11日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「あなたの不安を解消するためのライフ・プラン講座」第二回	生涯学習
2010年12月11日	カウンセリング基礎研修第五回(看護学部)	生涯学習
2010年12月12日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年12月14日	第5回地域研究部門ミーティング	地域研究
2010年12月15日	デザイン講座「身の周りを解体する」第二回	生涯学習
2010年12月16日	「やまなし映画祭」第1回実行委員会	戦略開発
2010年12月19日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年12月22日	地域研究交流センター第10回運営委員会	
2011年1月8日	YPU SUMMIT Winter「若者よ 起業を目指せ！」	生涯学習
2011年1月12日	デザイン講座「身の周りを解体する」第三回	生涯学習
2011年1月13日	第6回地域研究部門ミーティング	地域研究
2011年1月18日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2011年1月19日	デザイン講座「身の周りを解体する」第四回	生涯学習
2011年1月19日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2011年1月19日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2011年1月21日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2011年1月22日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「あなたの不安を解消するためのライフ・プラン講座」第三回	生涯学習
2011年1月22日	保育リカレント講座(人間福祉学部)	生涯学習
2011年1月23日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年1月25日	地域研究交流センター第11回運営委員会	
2011年1月26日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習

2011年1月27日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2011年1月29日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「あなたの不安を解消するためのライフ・プラン講座」第四回	生涯学習
2011年1月30日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年2月1日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(看護学部)	生涯学習
2011年2月2日	「やまなし映画祭」第2回実行委員会	戦略開発
2011年2月4日	甲府市幼児教育センター月齢別講座(人間福祉学部)	生涯学習
2011年2月5日	人間福祉学部講演会	生涯学習
2011年2月6日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年2月18日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」Vol.12発行	情報発信
2011年2月19日	観光講座「とことん語ろう！観光ビジネス」第三回	生涯学習
2011年2月23日	地域研究交流センター第12回運営委員会	
2011年2月26日	観光講座「とことん語ろう！観光ビジネス」第四回	生涯学習
2011年3月6日	池田地区健康祭りへの協力	交流・支援
2011年3月23日	地域研究交流センター第13回運営委員会	
2011年3月28日	地域研究交流センターパンフレット発行	情報発信
2011年3月31日	地域研究交流センターウェブサイト・リニューアル	情報発信

YPU SUMMIT Spring

山梨県立大学 公立大学法人化記念フォーラム

「地域における大学の力」

～県民の期待にどう応えるか～

知事・学長・県民が生議論!

山梨県

知事

横内正明

県立大

学長

伊藤 洋



山梨県立大学は、4月公立大学法人として新たなスタートを切りました。

自立的な運営が可能になることで、山梨県における教育・研究・地域貢献拠点として、

さらに各関係者と連携を深めて、活動を広げていきます。

今もう一度原点を振り返り、かつ県民のニーズや行政の期待を踏まえて、今後どのような方向で発展させていくべきかを議論し、ビジョンを共有していきたいと考えています。その中から、地域における具体的な活動につなげていきます。

2010年5月8日(土) 14:00～16:00 入場無料

会場 山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂 (甲府市飯田5丁目11-1)

出席 山梨県知事 横内正明 / 山梨県立大学学長 伊藤洋

申込受付 氏名として「YPUサミット参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号、質問・意見を記入の上、ファックス又はEメールでお申込みください。

FAX:055-224-5386 (山梨県立大学 地域研究交流センター) Eメール: ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

参加者
質問受付中

主催:山梨県立大学 地域研究交流センター

2010

春期総合講座

山梨県立大学の各学部を代表する教員が、時代のもっともホットな話題を、アカデミックな刺激に満ちた春期総合講座へ、ぜひお誘い合わせておいでください。

山梨県立大学の常設講座です。

山梨県立大学・山梨県立大学地域研究交流センター ～最前線シリーズ～

1

演題：「激変する北東アジアとわが国の平和と安全
—北朝鮮の核・ミサイル開発を中心として—」

講師：**斎藤直樹氏** (国際政策学部教授 専門領域：国際政治学・国際関係論)

開催日時：5月15日(土) 14:00-16:00

会場：山梨県立大学A館6階サテライト教室



2

演題：「あなたとあなたの赤ちゃんの
健康を守るための助産師活用術」

講師：**名取初美氏** (看護学部准教授 専門領域：助産学)

開催日時：5月29日(土) 14:00-16:00

会場：山梨県立大学A館6階サテライト教室



3

演題：「地方都市での生活と空間論」

講師：**畑本裕介氏** (人間福祉学部准教授 専門領域：社会保障論)

開催日時：6月5日(土) 14:00-16:00

会場：山梨県立大学A館6階サテライト教室



知ることは、
学ぶことへの
第1歩です!

キャンパスキャラクター
やまちゃん

◆ 申込受付 ☎ 055-224-5260

fax.055-224-5386

Eメール ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp

にてお申し込みください。

なお、FAXまたはEメールの場合、件名として「春期総合講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ず、ご記入ください。

◆ 主催：山梨県立大学 地域研究交流センター



山梨県立大学

飯田キャンパス (国際政策学部・人間福祉学部)

〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5-11-1 TEL 055-224-5261 FAX 055-228-6819

平成22年度

成年後見法施行10周年記念講演会

山梨県立大学教育GP・地域研究交流センター共催講座

「あなたの財産を誰に託しますか？」

— 超高齢化社会における地域連携と法 —

わが国の人口高齢化の速度は世界でも例のないものとなっています。特に高齢者自身の財産管理や身上監護（見守り）に関する法的支援システムの整備は地域社会においても大きな問題です。そのような中で、2000年4月にスタートした日本の成年後見法は今年4月に施行後10周年を迎えました。しかしながら、制度を利用する側からみて使い勝手の良さやサービスの質・費用の問題、制度の担い手となる専門職支援者や関係機関などとの連携が課題となっています。

今回、わが国成年後見法の制定時から深くかかわってこられた新井誠筑波大学教授をお招きし、高齢者の財産管理における現状と問題点、地域社会における様々な活動の紹介、そして、司法・行政・地域の結集による新たな取り組みについて皆さんと議論してみようと思います。



講師：新井 誠

筑波大学法科大学院教授（院長）
日本成年後見法学会理事長
日本信託法学会常務理事
（主要著作）
『財産管理制度と民法・信託法』（有斐閣1990年）
『成年後見と信託法』（有斐閣2005年）
『高齢社会における信託と遺産承継』（日本評論社2006年）
『成年後見と医療行為』（日本評論社2007年）等多数



- 日 時 平成22年7月23日（金） 午後6時～7時30分
- 場 所 山梨県立大学 飯田キャンパス講堂
甲府市飯田5-11-1
- 司会・コーディネータ 澁谷彰久 山梨県立大学国際政策学部教授
- 申込受付 TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386
Eメール ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

にてお申し込みください。なお、FAXまたはEメールの場合、件名として「共催講座への参加希望」をお書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ず、ご記入ください。



〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1
TEL:055-224-5261(代) FAX:055-228-6819



あの『はらぺこ あおむし』の翻訳者 もり ひさし氏 来学!!

絵本『はらぺこ あおむし』のおはなし

目的：本学の子育て支援に関するこれまでのネットワークを活かし、子育て中の親とそれを支援する人々、支援者になる学生たち、学生を教育する教員、自治体の担当者などに子育て支援について考える場を提供することにより、本県の子育て支援の質の向上を図る。2009年度に引き続き第4回を開催する。

対象：本学学生・教員、子育て当事者、子育てサークル、子育て支援者、保育者、自治体子育て支援担当者他

日時：2010（平成22）年10月12日（火）13:30～15:30（受付13:00～）

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

主催：山梨県立大学人間福祉学部 人間形成学科 共催：同 地域研究交流センター

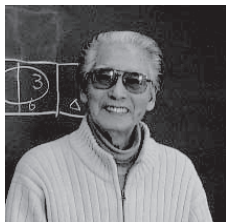
協力：山梨県立大学 図書館

参加費：無料 託児：あり（定員20名、6ヶ月以上のお子さん）

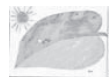
連携団体：ママネットやまなし、ちびっこはうす等県内子育て支援センター、子育て支援コーディネーター、子育てサポーターリーダー、ファミリーサポートセンター、県社会教育課・児童家庭課など

※『はらぺこあおむし』の絵本をお持ちの方は、当日ご持参いただくと講演内容が理解し易いと思います。

講師：もり ひさし 氏



本名、森久保仙太郎。絵本作家、白秋系の歌人として幅広く活躍。日本児童文学者協会名誉会員。日本女子大学、横浜国立大学の元講師。共栄学園短期大学元教授。エリック・カール作『はらぺこあおむし』（偕成社）、ガブリエル・バンサン作「くまのアーネストおじさん」シリーズ（BL出版）などの翻訳作品や『ちいさなきいろいかさ』（金の星社）などの、画家とともに練り上げた多くの絵本作品がある。



問い合わせ・申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター（電話055-224-5260）

メールの場合：件名を子育て支援フォーラム申込とし、ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp まで下記の項目をお知らせください。

FAXの場合：以下の申込み用紙に必要事項を記入して、FAX 055-224-5386 まで。

申込み期限：平成22(2010)年9月末日

***** 申込み用紙 *****

お名前 _____ ご所属 _____
ご住所 _____
(自宅・勤務先) _____

電話・携帯・FAX _____

(ご連絡が付きやすいものをお選びください)

託児希望： 有 無 ※「有」の場合、2010年9月末日現在の年齢 1人目(歳 ヶ月)
(3人以上の場合は余白にお書きください) 2人目(歳 ヶ月)

第一線の実業家をキースピーカーとして招き、「山梨の魅力はどうお金に変えるか」を来場者と語る。

とことん語ろう! 観光ビジネス 徹底論議3時間

観光の話は様々あれど、一般論はもう聞き飽きた(と、思いませんか)。
ビジネスは、常に新しいコンセプトを具現化することだ(だから、価値がある)。
行政に頼らず、独自の道を切り開いてきたポリシーを聞きたい(質問したい)。
山梨にしっかり根を下ろし、全国から世界へ飛躍するには?(情熱が一番?)。
そんな期待に応えて、ビジネス具体論を展開する「全4回観光講座」が開かれる。



第1回
2010年10月16日(土)
開催時間 13:30~16:30
講師: 船木 上次氏
(萌木の村 村長)

「常に良質なものにこだわり、お客様に愛される村をどう作ってきたのか?」



第2回
2010年10月23日(土)
開催時間 13:30~16:30
講師: 丹沢 良治氏
(株式会社タンザワ 社長)

「全国の観光地を知り尽くして、今山梨で何をしようとしているのか?」

第3回 2011年2月19日(土) 開催時間 13:30~16:30
講師: 中丸 眞治氏 (株式会社桔梗屋グループ オーナー)
「山梨にこだわり続け、いかにして日本を代表する「おみやげ」を作ったのか?」

第4回 2011年2月26日(土) 開催時間 13:30~16:30
講師: 鎌田 由美子氏 (JR東日本 地域活性化部門 部長)
「『エキナカ』をヒットさせ、今度は地域活性化ビジネスで何を狙うのか?」

会場 山梨県立大学飯田キャンパス サテライト教室(甲府市飯田5丁目11-1) **入場無料**

■お問い合わせ・お申し込み 山梨県立大学 地域研究交流センター(担当 相川) TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386
E-mail:ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp 件名を「観光講座」とし、氏名・電話番号・住所・参加希望日をFAX又は電子メールでお送りください。

主催: 山梨県立大学 / 実施: 地域研究交流センター

第1回

テーマ 健康

笑いで生き生き！
人生はつらつ

● 講師 ●

東京医療保健大学医療栄養学科教授

高柳和江

● 開催日時 ●

11/27(土) 午後2:00～4:00

● 開催場所 ●

山梨県立大学
池田キャンパス 講堂

第3回

テーマ 法律

あなたの老後を
見守る法律

～成年後見制度について～

● 講師 ●

国際政策学部教授 澁谷彰久

● 開催日時 ●

平成23年 1/22(土)
午後2:00～4:00

● 開催場所 ●

山梨県立大学
A館6階サテライト教室

受講料 無料

お申し込み

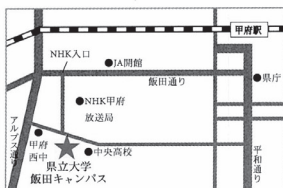
〒400-0035 甲府市飯田5-11-1
山梨県立大学(学務課担当)

TEL : 055-224-5260

FAX : 055-224-5386

E-mail : ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

※ なお、FAXまたはEメール
の場合、件名として「平成
22年度コミュニティーカ
レッジ講座参加希望」とお
書きいただき、氏名、住
所、電話番号を必ず、ご記
入ください。



パブリック
テマ
講座

あなたの不安を解消するための
ライフ・プラン講座



キャンパスキャラクター
やまちゃん



平成22年度
コミュニティーカレッジ講座
(地域ベース)

老若男女を問わず現代人の抱える生活の不安を解
消するために健康、福祉、財産、法律等に関する身近
な話題を、専門家がわかりやすく楽しく講義します。
日頃感じていること、不安に思っていることをこの
際、遠慮なく聞いてみてください。きっと、新しい視
界が開けてくるはずです。

第2回

テーマ
ソーシャルスキル
トレーニング(SST)

お互いの経験と関心を
生かした支え合い

～ピアカウンセリングからの学び～

● 講師 ●

人間福祉学部准教授 大塚ゆかり

● 開催日時 ●

12/11(土) 午後2:00～4:00

● 開催場所 ●

山梨県立大学
A館6階サテライト教室

第4回

テーマ 財産

女性とお金

～人生に必要なマネープランを立てよう～

● 講師 ●

国際政策学部教授 黒羽雅子

● 開催日時 ●

平成23年 1/29(土)
午後2:00～4:00

● 開催場所 ●

山梨県立大学
A館6階サテライト教室

身の周りを解体する

デザイン講座

「デザイン」は皆さんにとってどんな物ですか？

「デザインをする」「デザインにこだわる」「このデザインが好き」…など、デザインという言葉は私たちの生活の中で気軽に使われています。

そして、デザインよりもっと遠い存在にある「編集」。

編集者という名前を聞いたことはあるけれど、一体何をしている人なのだろうと疑問に思うことでしょうか。

編集とデザインはただ単に雑誌や物を作るために必要なことではなく、私たちの日々の暮らしも「デザイン」と「編集」をすることで、より快適になります。今回、4回にわたってデザイン講座を開催します。

1冊の冊子を作成することを最終目的にしながら、デザインと編集についての講座。お気軽にご参加ください。

講師

保坂紀明（グラフィックデザイナー）

雨宮千春（編集者）

第1回「編集とデザインとの関係」

まずは編集とデザインとの関係についてのお話です。最終日に本を作るための参考に少しでも編集者とデザイナーの仕事も紹介します。

第2回「冊子づくりのコツ」

冊子づくりのコツは何でしょう。レイアウトや文章の書き方、配置など具体的な「見せ方」についてのお話をします。

第3回「調べる、組み立てる」

自分だけの冊子を作るための内容を決めましょう。身の回りにある物や人などに注目し、調べ、ページ内容を組み立てる方法を伝授します。

第4回「自分だけの冊子」

最後の講座では、自分だけの冊子を完成させます。さて、どんな一冊ができるか楽しみです。

INFORMATION

第1回 12月1日(水) 18:10～20:10

第2回 12月15日(水) 18:10～20:10

第3回 1月12日(水) 18:10～20:10

第4回 1月19日(水) 18:10～20:10

場 所：飯田キャンパス A館6階サテライト教室

受講料：無料

駐車場：あり

若者よ、 起業者を目指せ！

君が山梨の歴史を作る！



山梨県立大学主催 YPU SUMMITS ❄️ Winter



今年は、最悪の就職氷河期と言われてます。学生にとっては、大きな試練に違いありません。しかし今はもう、どこかの会社に就職できれば安心という状況ではありません。ビジネスは今大きな転換点の只中にあります。IT化・国際化に伴い、生産・流通・販売の仕組み自身の変革が求められている今だからこそ、「起業」に大きなチャンスがあります。この不況、金利0%の今は、起業にとって、追い風です。3人の講師は、自らの道を自分で切り開きました。夢を実現するための「起業精神」を共有してほしいと思います。

YPUサミットの第1回は5月8日「知事×学長 生議論」を行いました。第2回は、山梨に新たな産業を作るために「社会起業」をテーマにしたフォーラムを行います。若者・学生たちはもちろん誰でもが、もう一つの選択肢「社会起業」を考える契機となることを期待しています。

講師

山梨日立建機社長 **雨宮 清 氏**
(自費で地雷除去機材を開発、世界各国で貢献)



サラダボウル社長 **田中 進 氏**
(銀行マンを辞め、山梨で大型農業法人を設立)



レアジョブ社長 **加藤 智久 氏**
(フィリピンとつないだオンライン英会話学校)



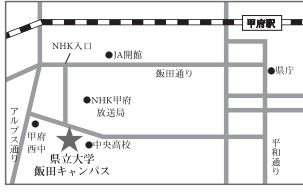
開催日時・会場

2011年 **1月8日** 土 13:30~16:30
山梨県立大学 講堂

お申し込み

対象：学生・一般
受講料：無料

〒400-0035
甲府市飯田 5-11-1
山梨県立大学(学務課担当)
TEL : 055-224-5260
FAX : 055-224-5386
E-mail : ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp



山梨県立大学 第4回 保育リカレント講座

不思議がいっぱい“パネルシアター”

— 創る・演じる 楽しい「しかけ」を体験しよう

日時：2011年1月22日（土）午後2：00～5：00

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス B館1階 120教室

共催：山梨県立大学 人間福祉学部人間形成学科・地域研究交流センター

対象：幼稚園教諭・保育士・子育て支援者・学生など

定員：40名 参加費：無料

内容：①「しかけ」等、子どもたちがあっと驚くようなマジック的なパネルシアターの展開を通して、子どもたちと楽しくコミュニケーションをとるための基礎的な技法を学ぶ。

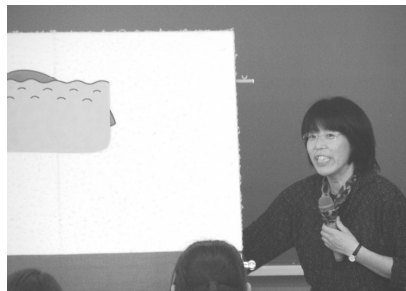
②講師の先生からアドバイスをいただきながら、参加者自身が絵人形を作り、演じる体験をする。

持参していただくもの：鉛筆、油性ペン（サインペンの太さのもの）、ハサミ

♡ 講師*月下和恵（パネルシアター作家）♡

【略歴】淑徳幼児教育専門学校講師。子どもの文化学校講師。

日本基督教団志木教会附属泉幼稚園教諭。実践女子短期大学を卒業後、パネルシアターの創始者である古宇田亮順氏に師事。パネルシアターの楽しさを実感し、子どもたちに愛される作品づくりに取り組む中で、代表作「カレーライスのうた」が大人気となる。現在、講習会・セミナーや大学での講義を全国各地で実施。



問い合わせ・申込み先：山梨県立大学 地域研究交流センター（電話055-224-5260）

メールの場合：件名を保育リカレント講座申込とし、ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp まで下記の項目をお知らせください。

FAXの場合：以下の申込み用紙に必要事項を記入して、FAX 055-224-5386 まで。

申込み期限：1月15日まで（定員40名になり次第、お申し込みを終了いたします。ご了承ください。）

***** 申込み用紙 *****

お名前 _____ ご所属 _____

ご住所 _____

（ 自宅・勤務先 ） _____

電話・携帯・FAX _____

（ご連絡がしやすいものをお選びください）



つながりあう 福祉社会を求めて

山梨県立大学 人間福祉学部・地域研究交流センター・
学生自治会 共催フォーラム

第一弾 | 語り合おう

ひとと関わる仕事 その魅力の光と影

ひとと関わる仕事、ひとを援助する仕事の素晴らしさ、難しさを語り合います。
世代や環境の違う人とうまくつきあうには？ コミュニケーションを豊かにするには？ …人と関わる
ことへ、多くのヒントが得られる参画型フォーラム（参加者とのやりとりの時間を大切にする）を
めざします。どなたでも参加できます。

パネラー

幼稚園副園長：石川朝美 精神科ソーシャルワーカー：神吉まゆみ
福祉コミュニティ学科1年：金子美由樹 人間形成学科2年：浅井芙美子
人間福祉学部学部長：藤谷秀

モデレーター

人間福祉学部教員：川池智子

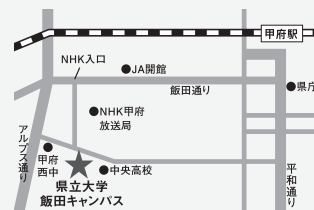
日時 2011年 **2月5日(土)** 13:00～15:20(受付開始12時40分)

場所 山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

入場料 無料(当日入場可)

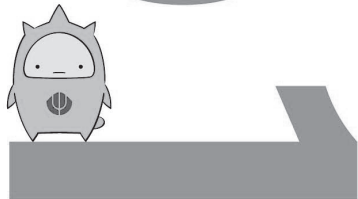
お申込み 〒400-0035 甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学(学務課担当)
TEL: 055-224-5260 FAX: 055-224-5386 E-mail: ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

キャンパスキャラクター
やまちゃん



N

O



www.yamanashi-ken.ac.jp

O

年度

山梨県立大学 地域研究交流 センター 研究報告会

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援をおこなって参りました。今年度は、その成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。どうぞお気軽にご参加ください。

日時 2011.5.18(水)
時間 18:30~21:00
場所 山梨県立大学A館6階サテライト & 606教室
料金 無料(出入り自由)

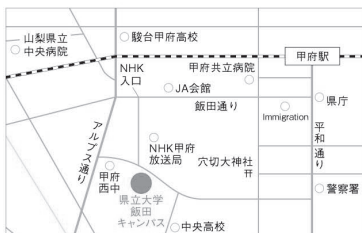
A館6階サテライト

- 18:30 学長挨拶
- 18:40 池田 政子
やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト
- 19:00 伏見 正江
森の力を活かした女性の健康プロモーション
- 19:20 流石 ゆり子
看護学生との交流による地域リーダー
高齢者の活動への満足度・心理・若者像の変化
- 19:40 清水 恵子
青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究2
- 20:00 反町 誠
障害者自立支援法時代の基礎自治体における
地域生活支援の人材開発：山梨モデルの研究ーその2

A館606教室

- 18:40 安藤 淑子
大学と地域の連携による多文化共生推進プロジェクト
- 19:00 吉田 均
個人観光客に対応したユニバーサルデザインによる
着地型観光ルートマップのモデル開発に関する研究
- 19:20 熊谷 隆一
よつびし総研プロジェクト 2010
ーよつびし総研による甲府中心市街地活性化事業ー
- 19:40 斎藤 秀子
地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について
ー甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発ー
- 20:00 張 兵
山梨企業の中国進出の動向と課題
- 20:20 黒羽 雅子
山梨県産業金融史
ー「若尾財閥地所部決算報告」分析を中心にー
- 20:40 センター長挨拶

PROGRAM



お問い合わせ

〒400-0035 甲府市飯田5-11-1
山梨県立大学
TEL. 055-224-5260
主催：山梨県立大学地域研究交流センター

2010年度 山梨県立大学 地域研究交流センター 年報

発行者：地域研究交流センター長 前澤 哲爾

編集：地域研究交流センター 情報発信部門

部門長 箕浦 一哉 (総合政策学科)

八代 一浩 (国際コミュニケーション学科)

大塚 ゆかり (福祉コミュニティ学科)

池田 充裕 (人間形成学科)

山田 光子 (看護学部)

大久保 ひろ美 (看護学部)

発行所：山梨県立大学地域研究交流センター

住所：〒400-0035 山梨県甲府市飯田5丁目1-11

TEL：055-224-5260 FAX：055-224-5386

E-mail: ucrc@ml.yamanashi-ken.ac.jp

URL: <http://www.yamanashi-ken.ac.jp/ucrc/>

発行日：2011年5月31日

